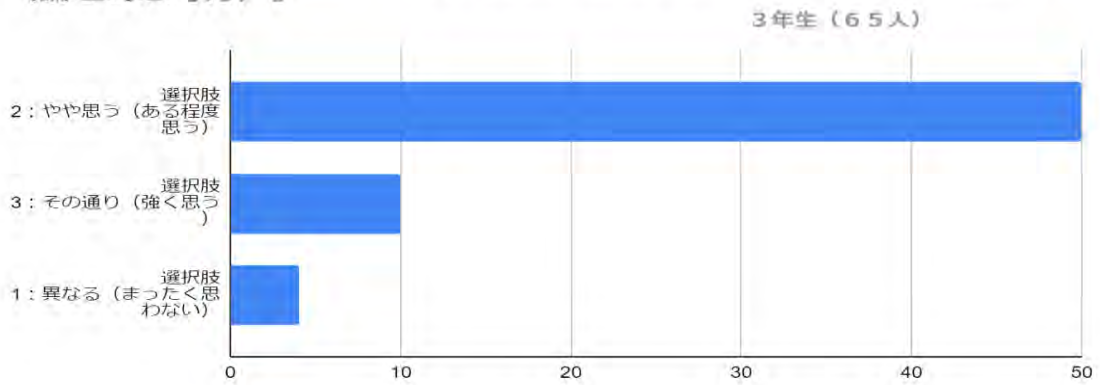


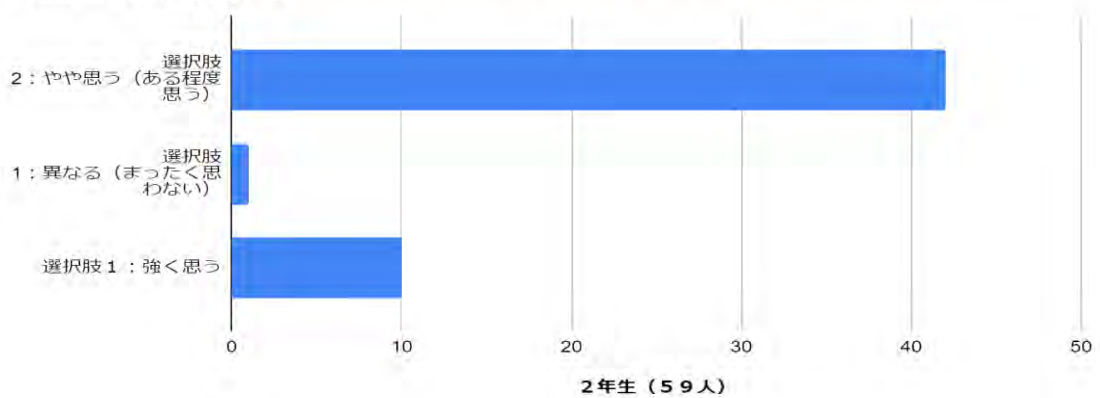
第3章 実施の効果とその評価

1. 年度末アンケートの結果

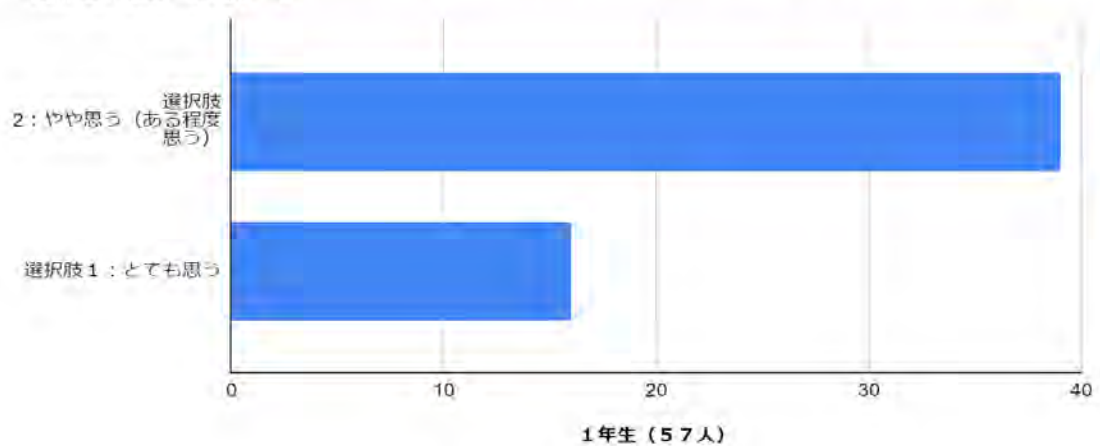
「1. 3年間の取り組みを通して論理的な思考力・判断力を高めたい。(論理的思考力)」



「1. 3年間の取り組みを通して論理的な思考力・判断力を高めたい。(論理的思考力)」

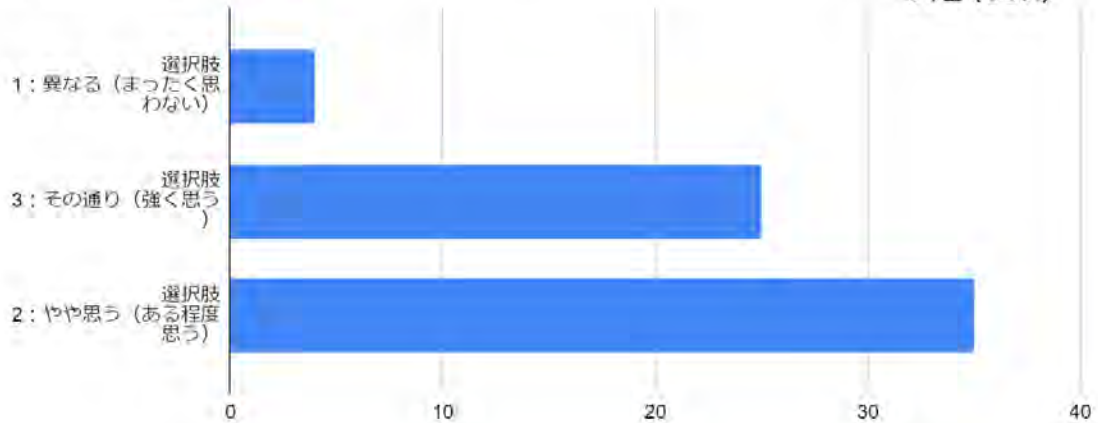


「1. 3年間の取り組みを通して論理的な思考力・判断力を高めたい。(論理的思考力)」

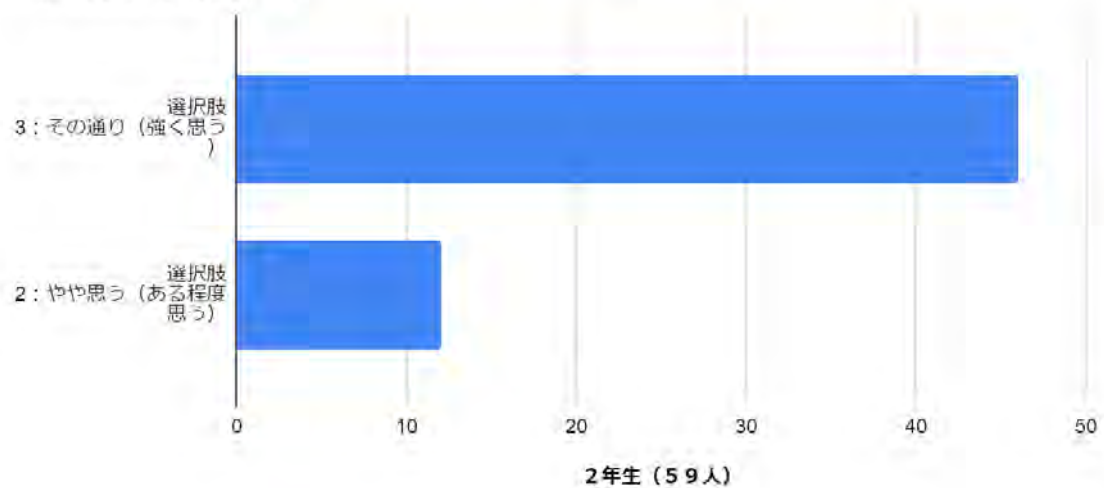


「2. 様々な文化の違いについて、理解し、考える力を身につけたい。
(批判的思考力)」

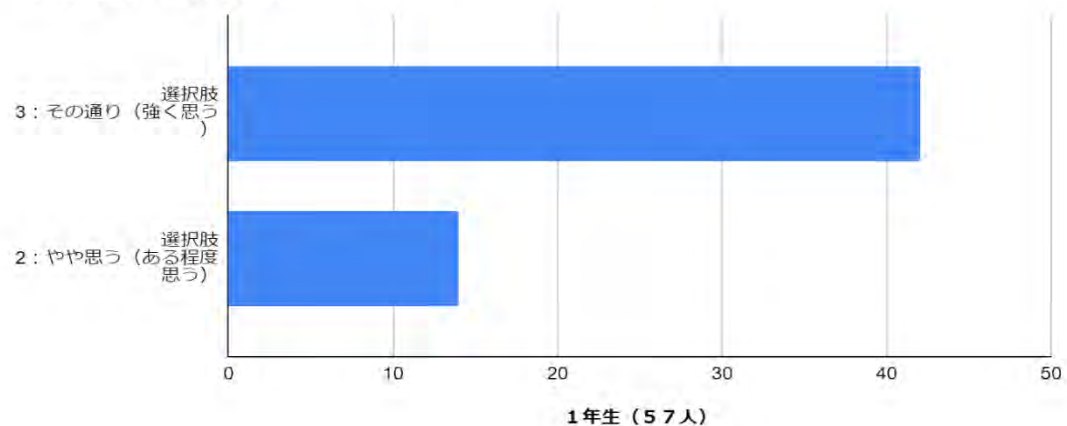
3年生 (65人)



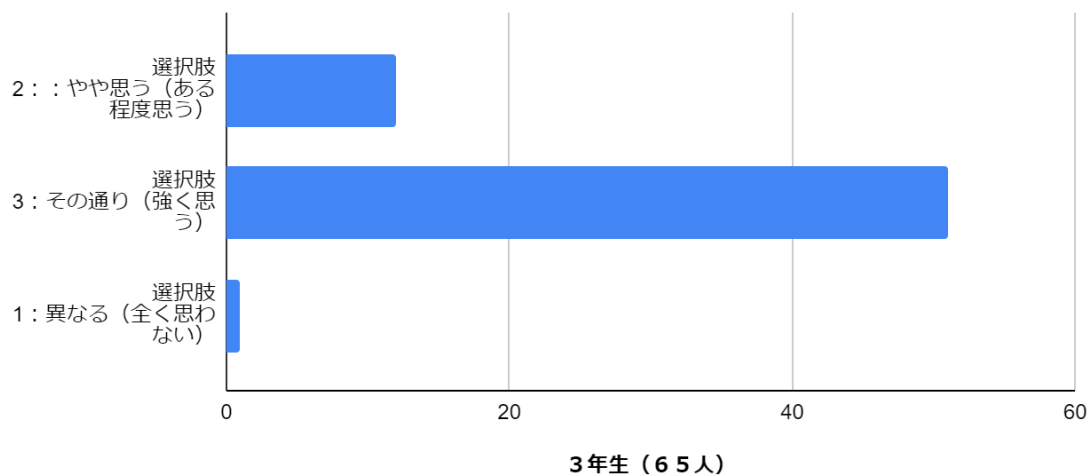
「2. 様々な文化の違いについて、理解し、考える力を身につけたい。
(批判的思考力)」



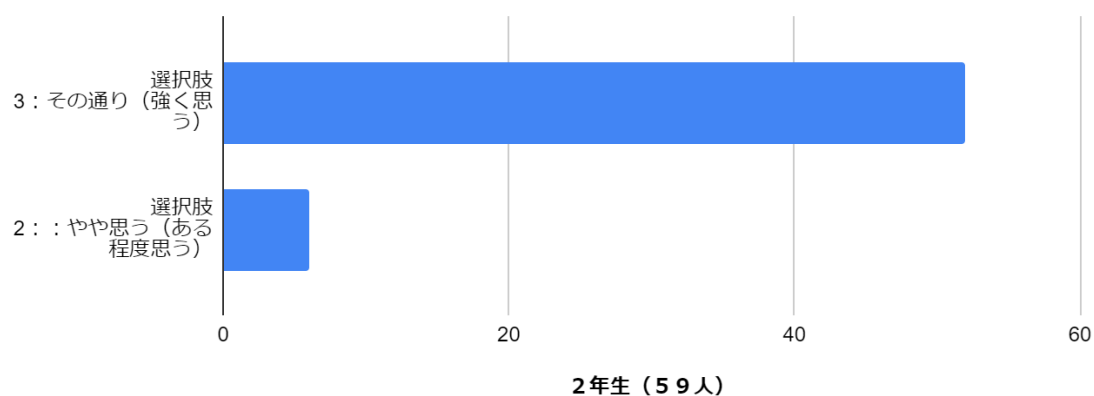
「2. 様々な文化の違いについて、理解し、考える力を身につけたい。
(批判的思考力)」



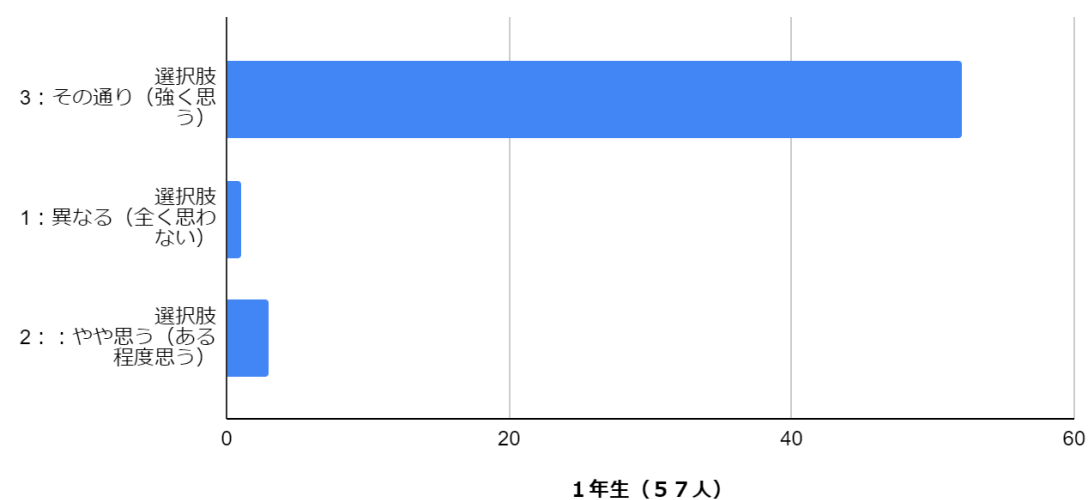
「3. 部分的な事柄を1つに組み合わせて最善の方策が行える柔軟性を身に付けたい。(創造性)」



「3. 部分的な事柄を1つに組み合わせて最善の方策が行える柔軟性を身に付けたい。(創造性)」

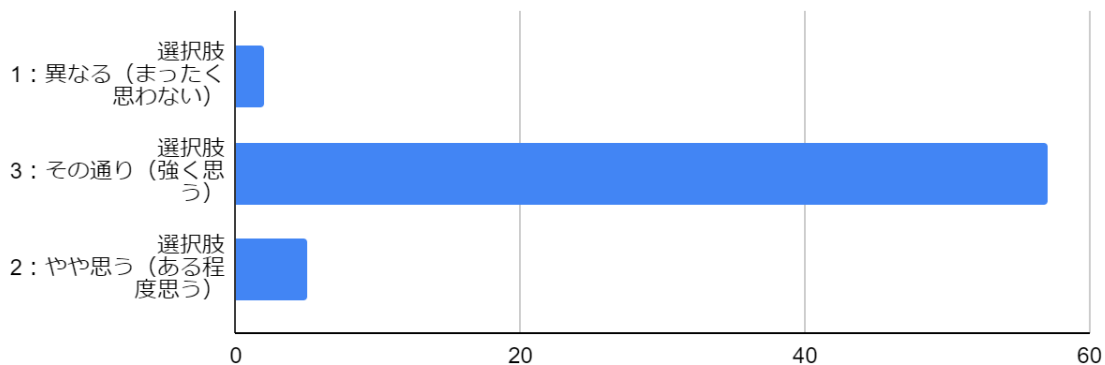


「3. 部分的な事柄を1つに組み合わせて最善の方策が行える柔軟性を身に付けたい。(創造性)」

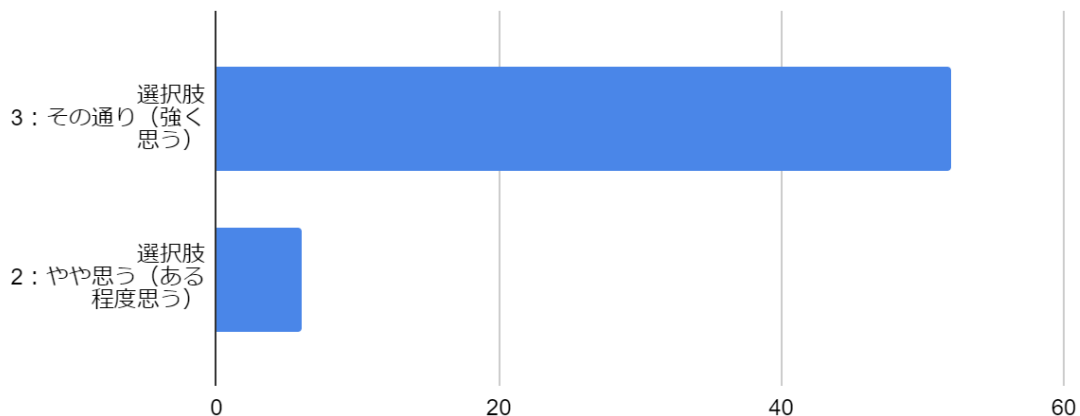


「4. 考えたことを実行に移そうとする行動を身に付けたい。
(行動力・発信力)」

3年生 (65人)

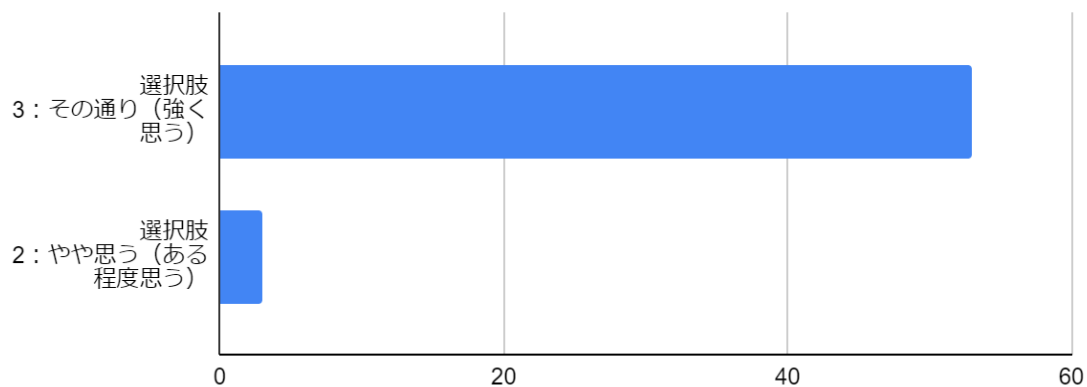


「4. 考えたことを実行に移そうとする行動を身に付けたい。
(行動力・発信力)」



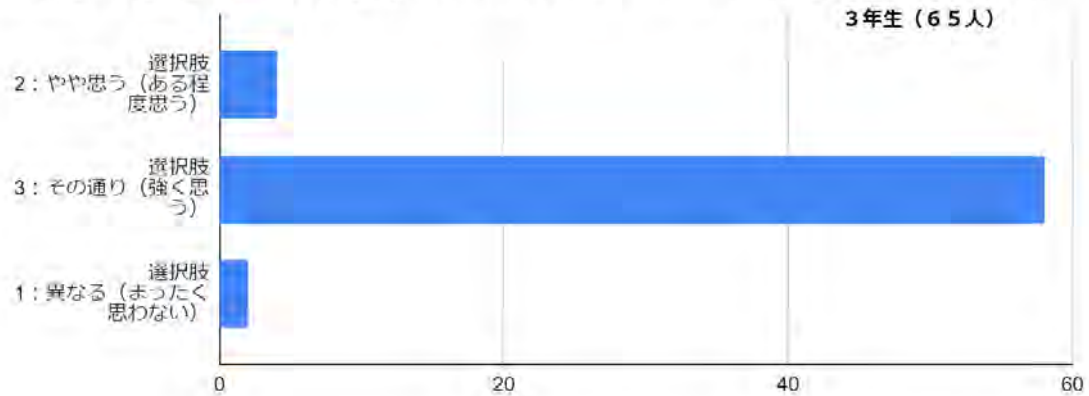
2年生 (59人)

「4. 考えたことを実行に移そうとする行動を身に付けたい。
(行動力・発信力)」

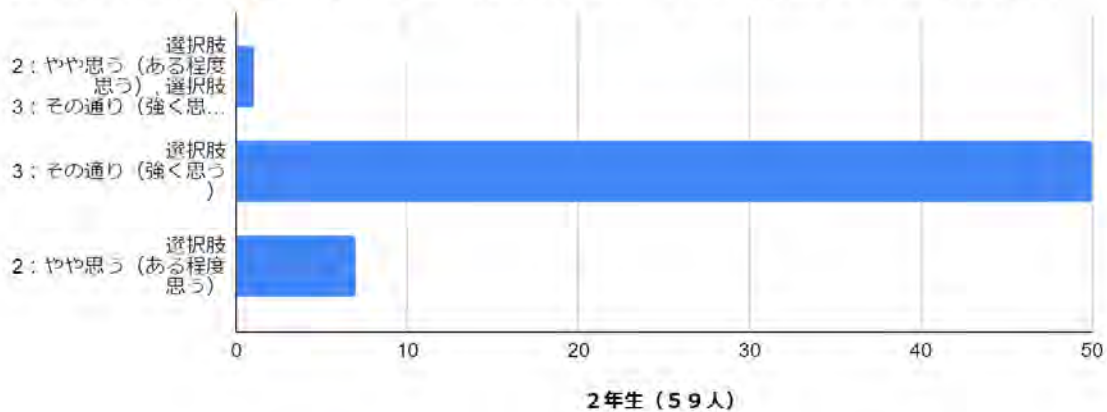


1年生 (57人)

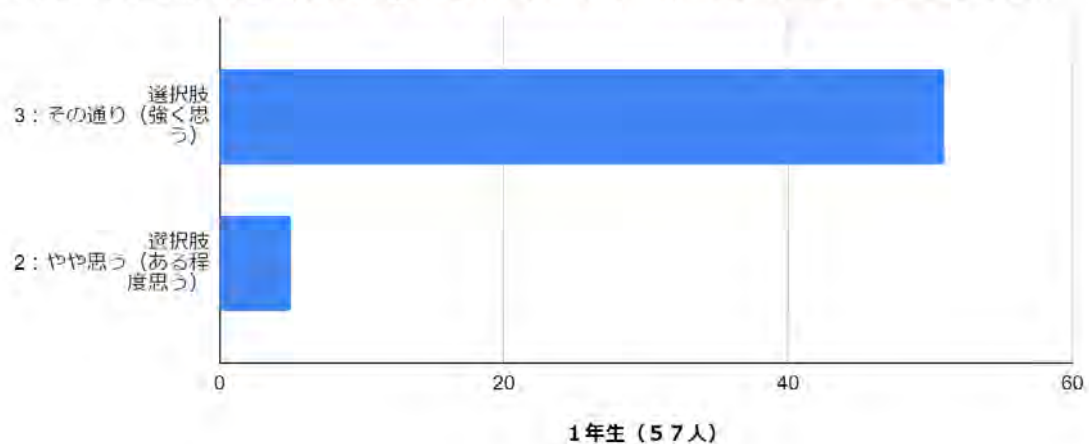
「5. 討論（グループディスカッションやサミット等）の場で正しく理解して討論できる力を身につけたい。（コミュニケーションカ...



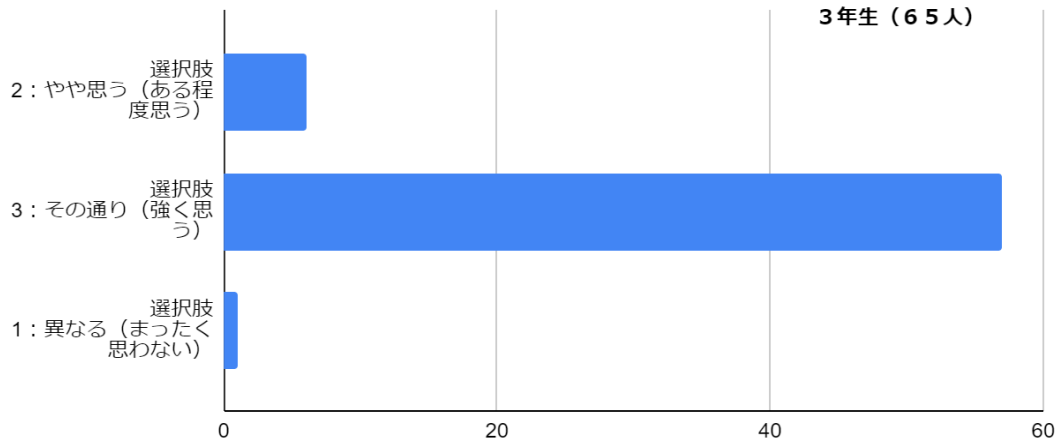
「5. 討論（グループディスカッションやサミット等）の場で正しく理解して討論できる力を身につけたい。（コミュニケーションカ...



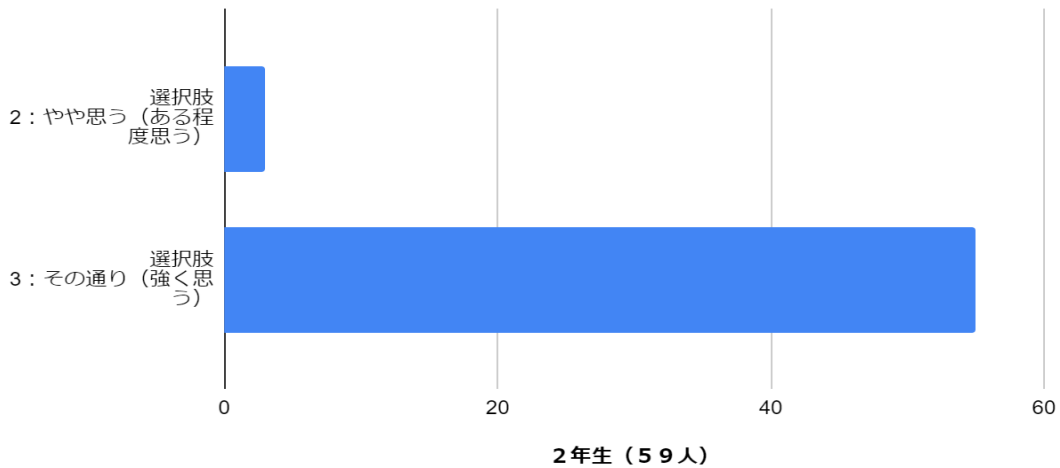
「5. 討論（グループディスカッションやサミット等）の場で正しく理解して討論できる力を身につけたい。（コミュニケーションカ...



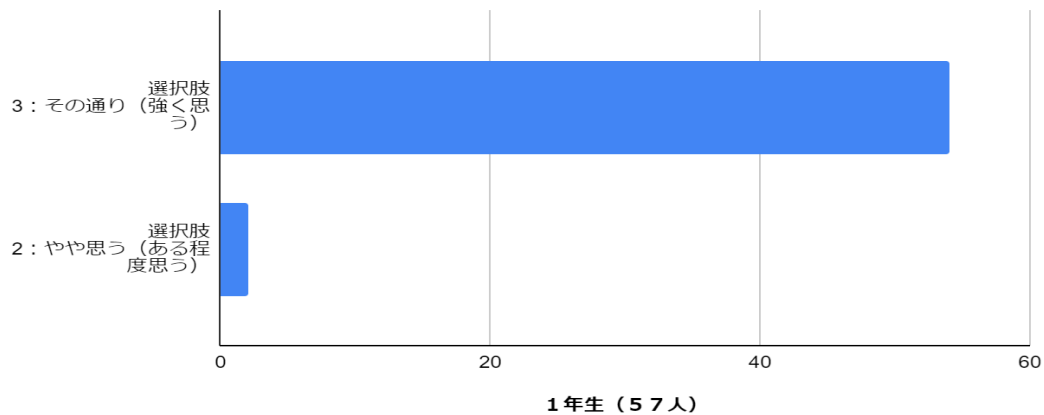
「6. 理解したことを適切に言葉で表現できるようになりたい。
(コミュニケーション力)」



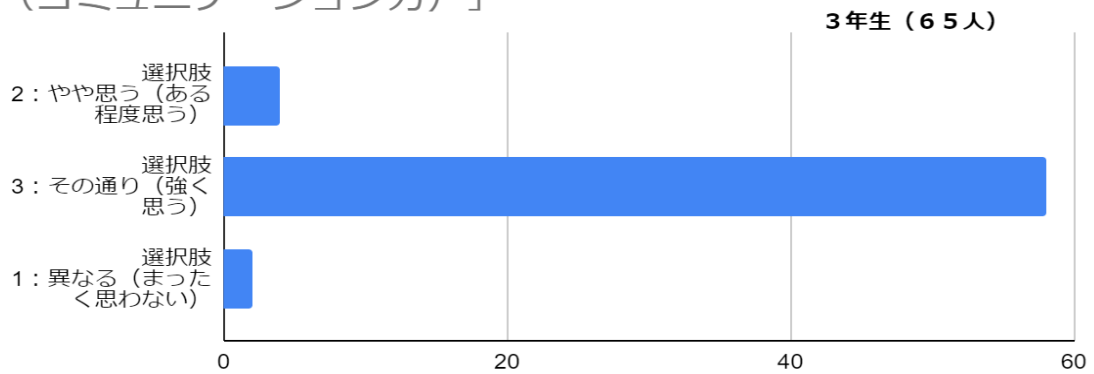
「6. 理解したことを適切に言葉で表現できるようになりたい。
(コミュニケーション力)」



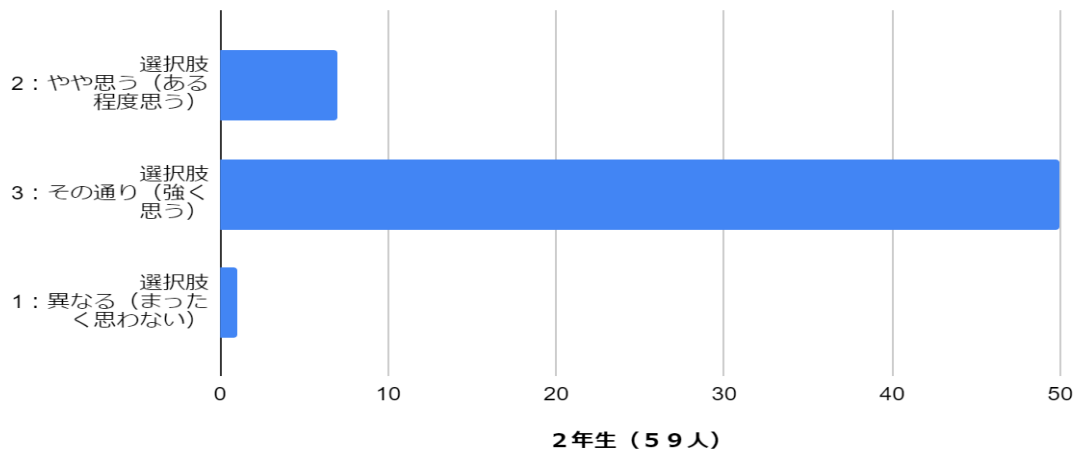
「6. 理解したことを適切に言葉で表現できるようになりたい。
(コミュニケーション力)」



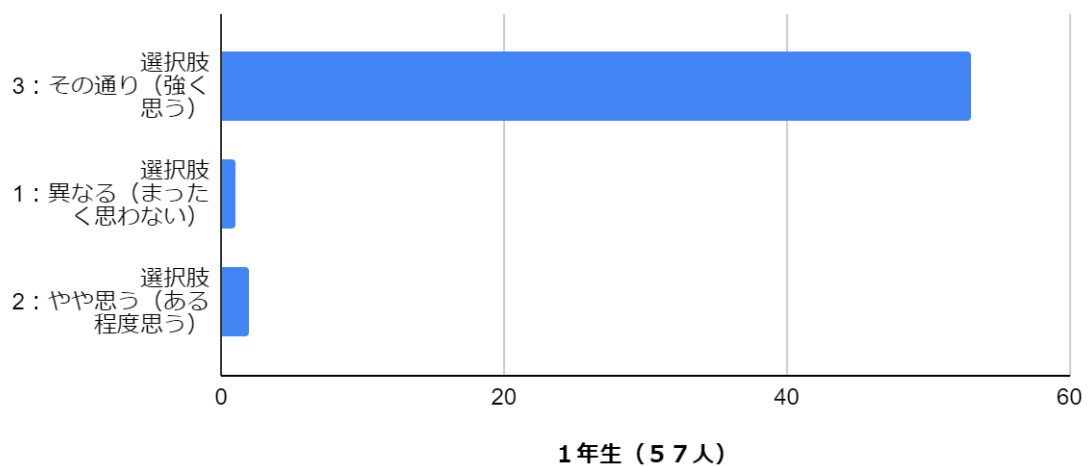
「7. 主体的に課題を構想し、解決する力を身につけたい。
(コミュニケーション力)」



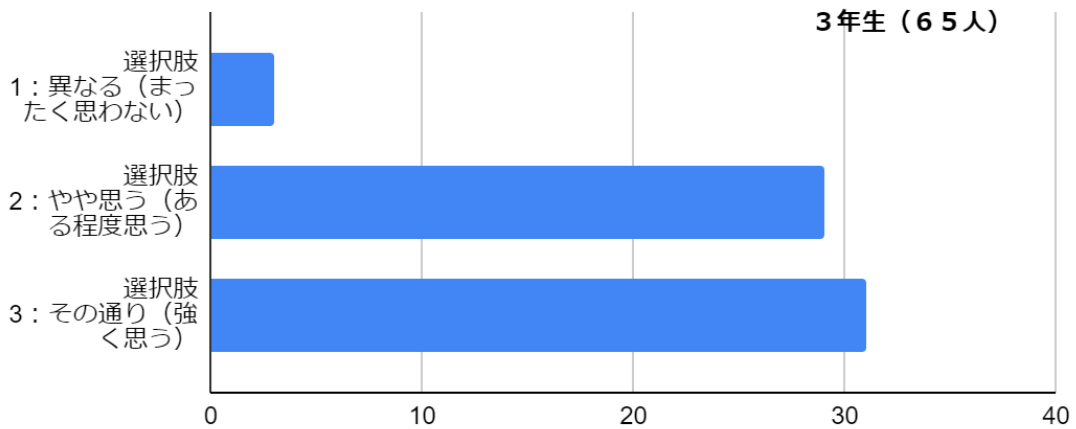
「7. 主体的に課題を構想し、解決する力を身につけたい。
(コミュニケーション力)」



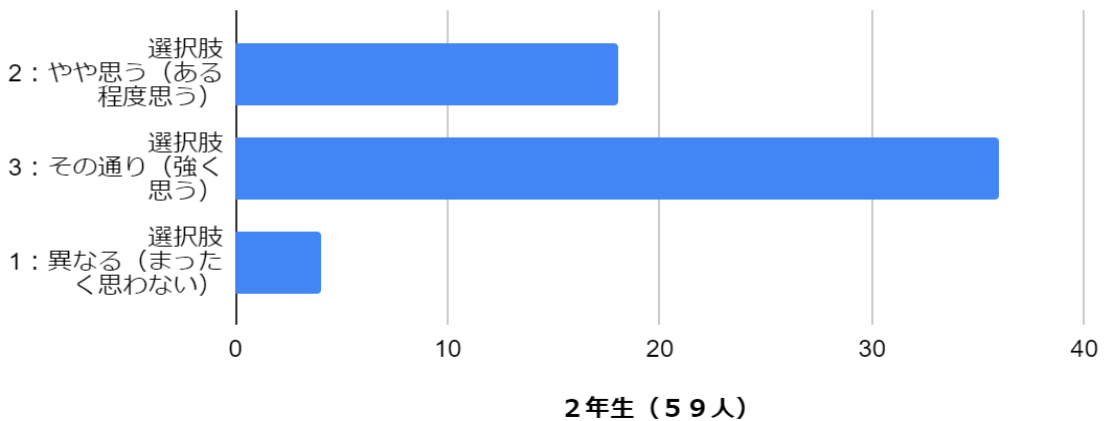
「7. 主体的に課題を構想し、解決する力を身につけたい。
(コミュニケーション力)」



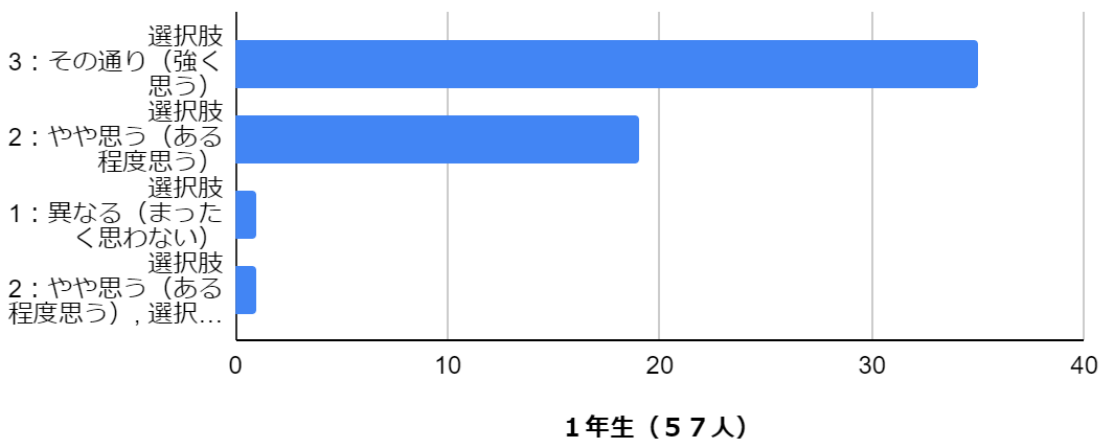
「8. グローカルリーダーとしての自覚を高め、様々な
 方面で活躍したい。（グローバルリーダーの資質）」...



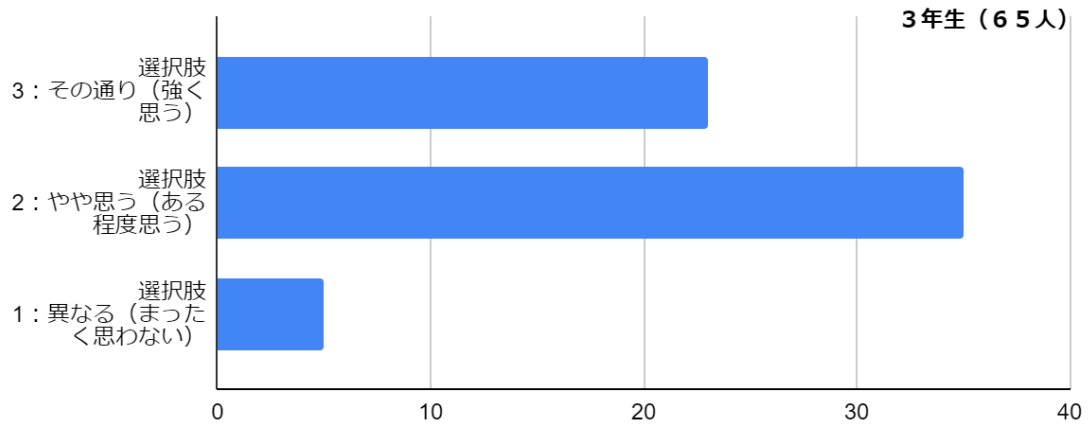
「8. グローカルリーダーとしての自覚を高め、様々な
 方面で活躍したい。（グローバルリーダーの資質）」



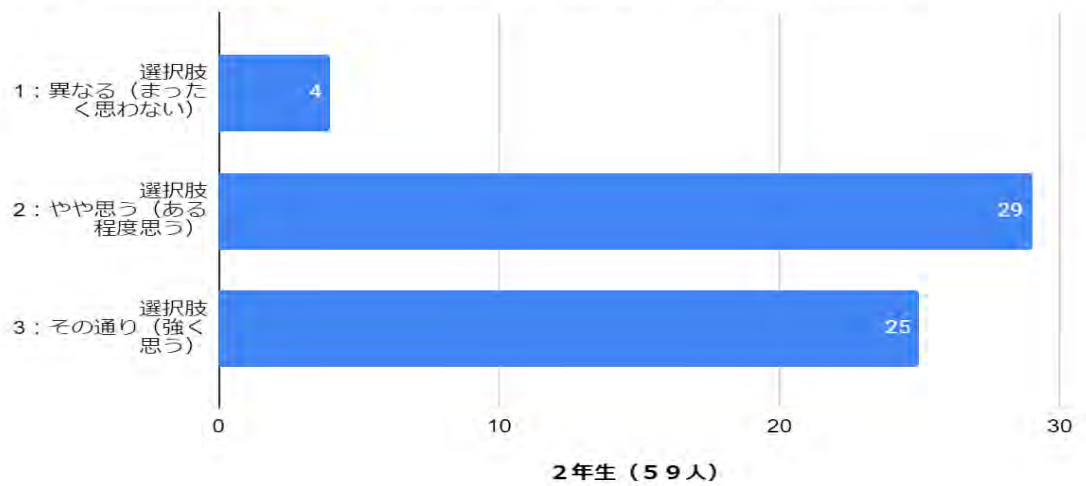
「8. グローカルリーダーとしての自覚を高め、様々な
 方面で活躍したい。（グローバルリーダーの資質）」



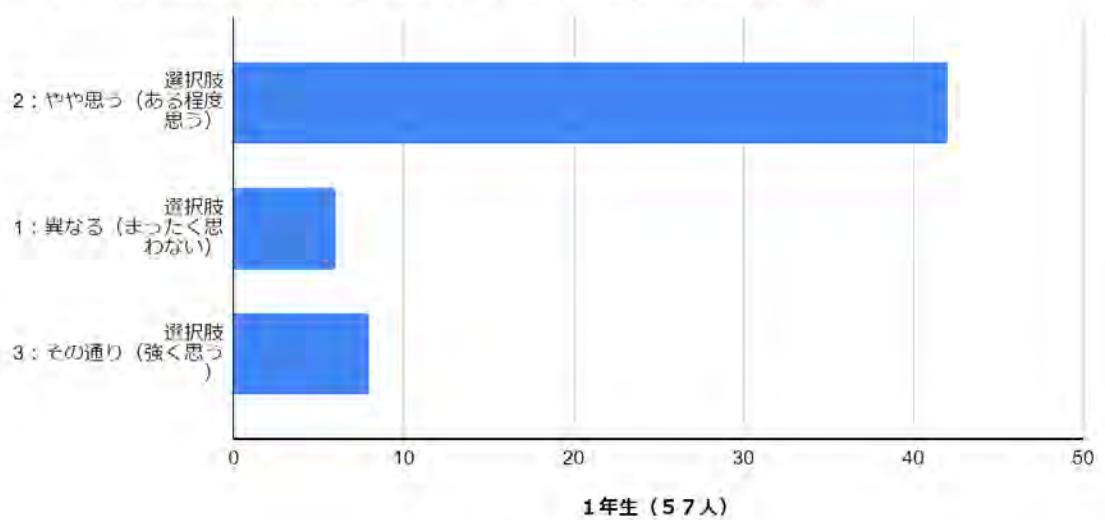
「9. 地元山梨県のことについて興味・関心がある。」



「9. 地元山梨県のことについて興味・関心がある。」

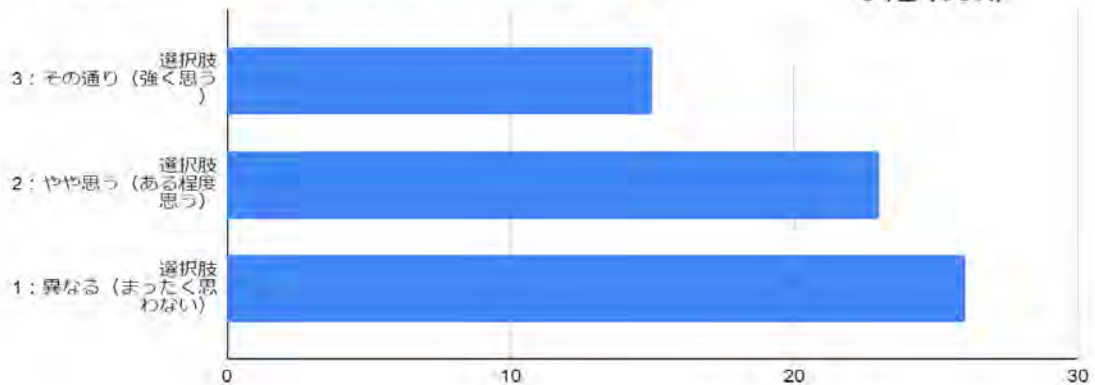


「9. 地元山梨県のことについて興味・関心がある。」

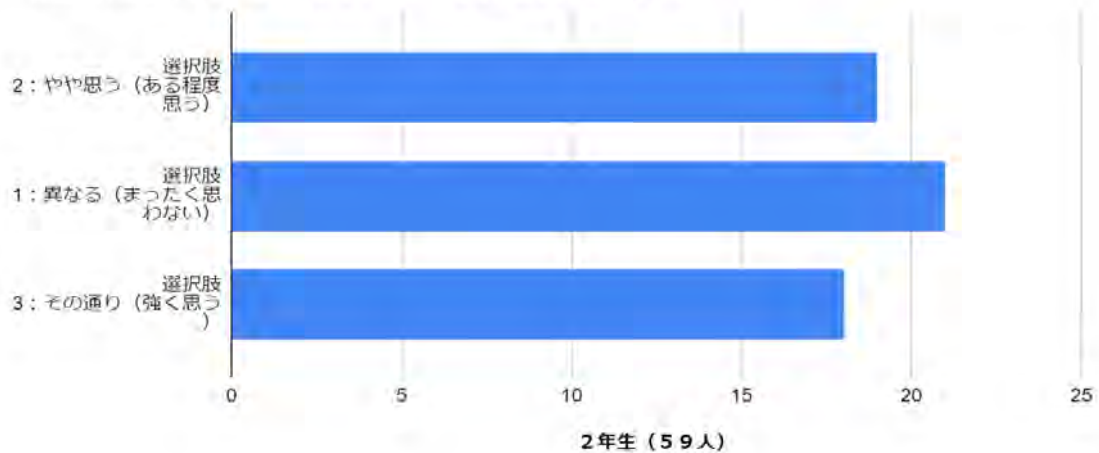


「10.大学は県外の大学に進学したいが将来的には山梨県に戻ってきたい
(働きたい) と思っている。(事業の目標)」

3年生(65人)

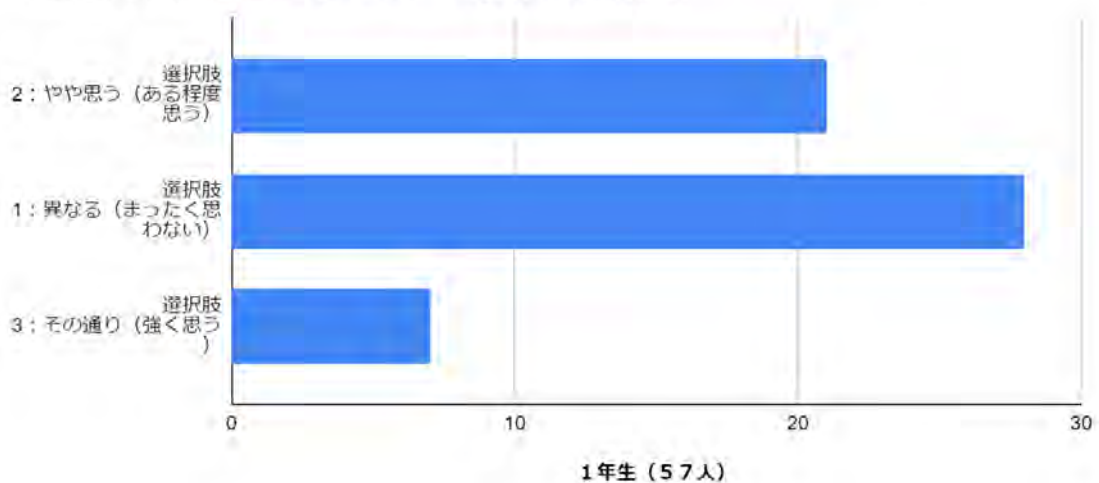


「10.大学は県外の大学に進学したいが将来的には山梨県に戻ってきたい
(働きたい) と思っている。(事業の目標)」



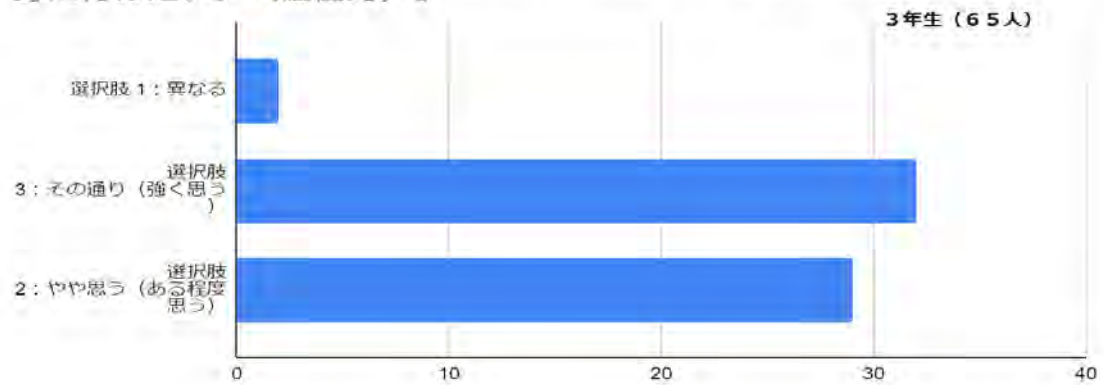
2年生(59人)

「10.大学は県外の大学に進学したいが将来的には山梨県に戻ってきたい
(働きたい) と思っている。(事業の目標)」

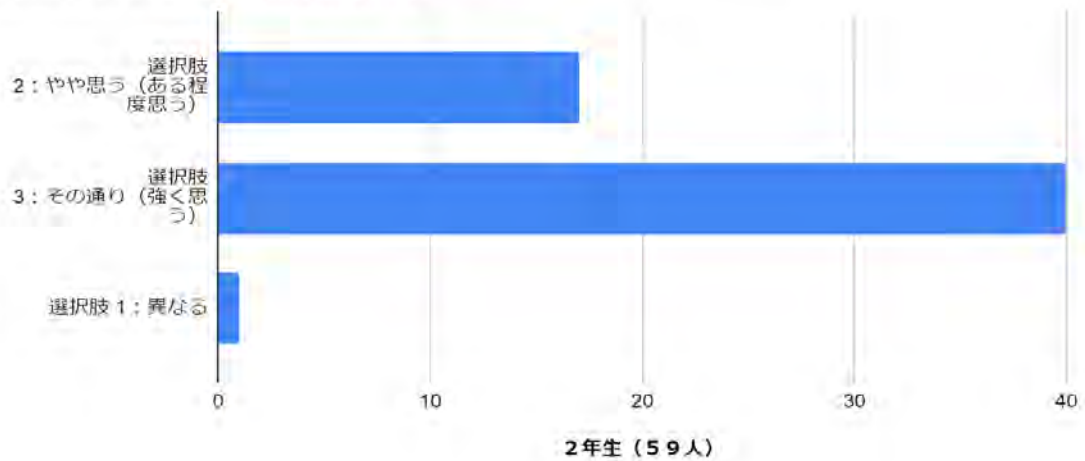


1年生(57人)

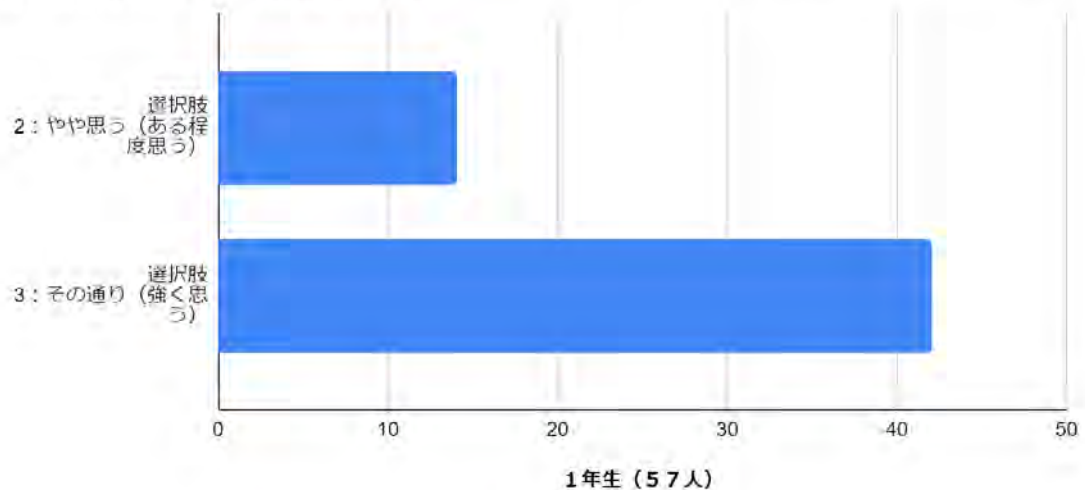
「11.周囲の仲間もしくは地域と協力・連携し、物事を進めていく力を身に付けたい。(協働力)」



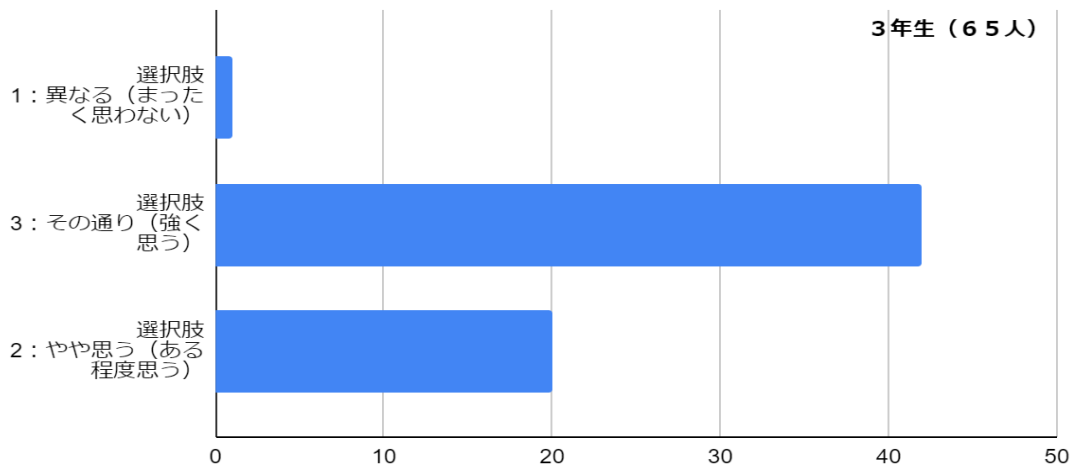
「11.周囲の仲間もしくは地域と協力・連携し、物事を進めていく力を身に付けたい。(協働力)」



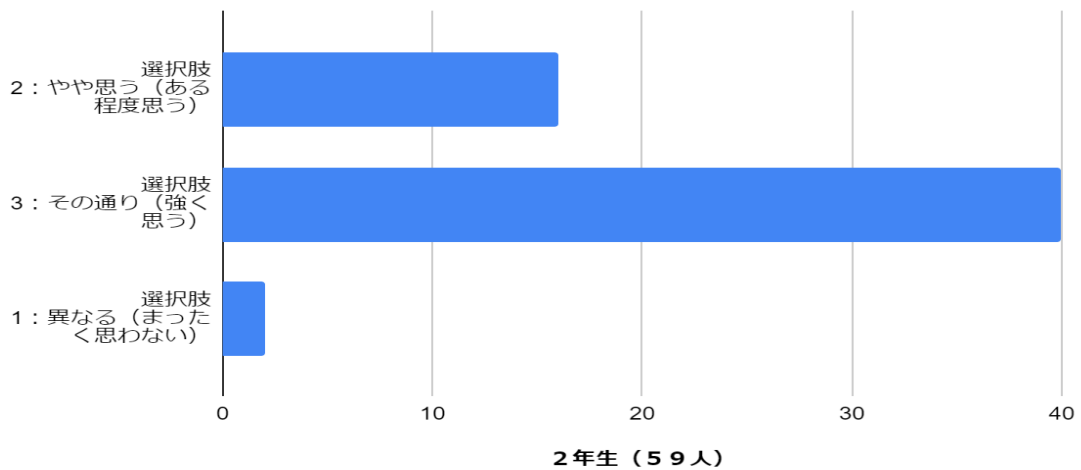
「11.周囲の仲間もしくは地域と協力・連携し、物事を進めていく力を身に付けたい。(協働力)」



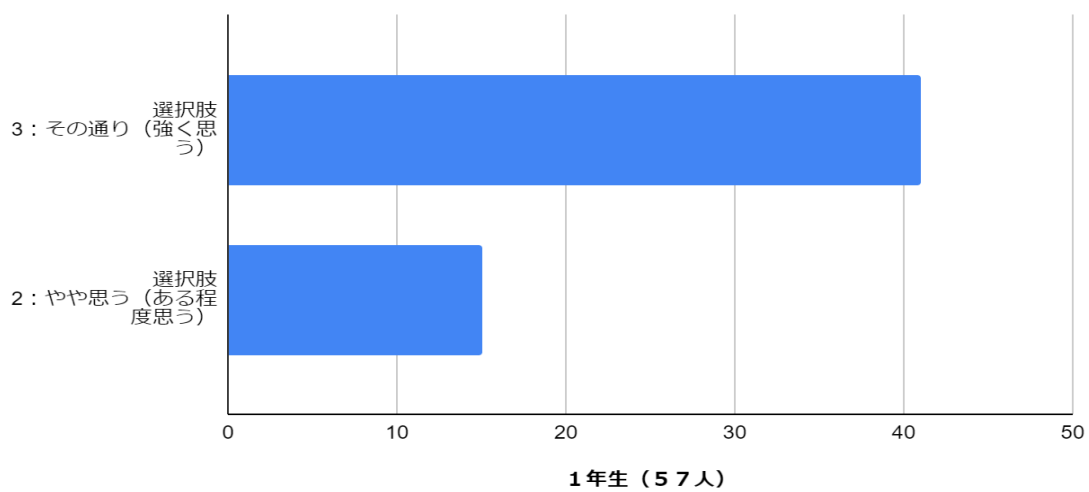
「12.未来の事柄への興味・関心がある。（興味・関心）」



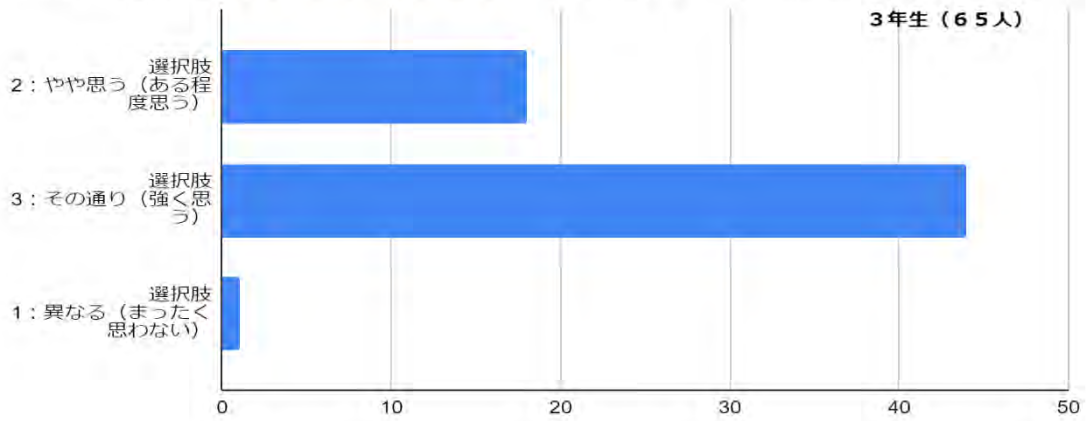
「12.未来の事柄への興味・関心がある。（興味・関心）」



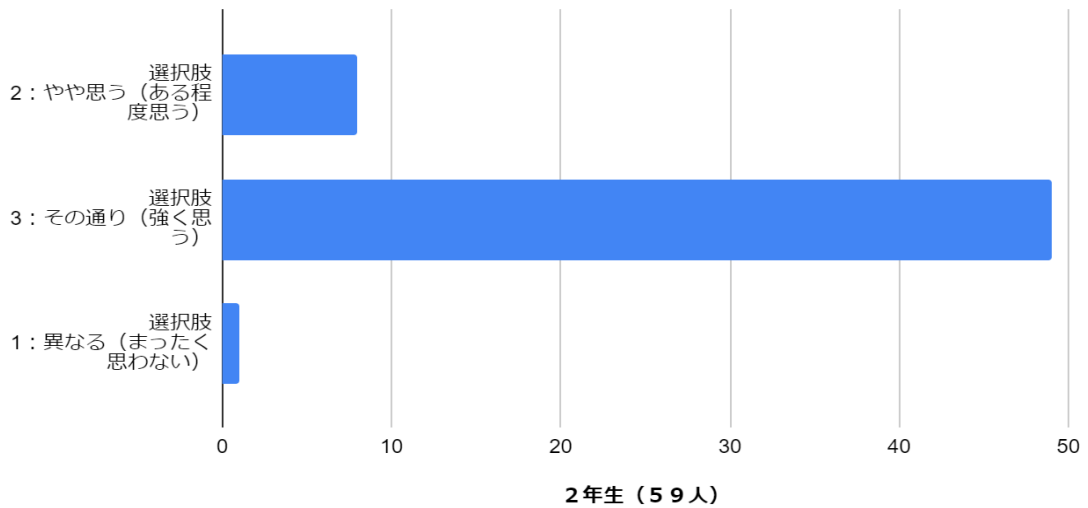
「12.未来の事柄への興味・関心がある。（興味・関心）」



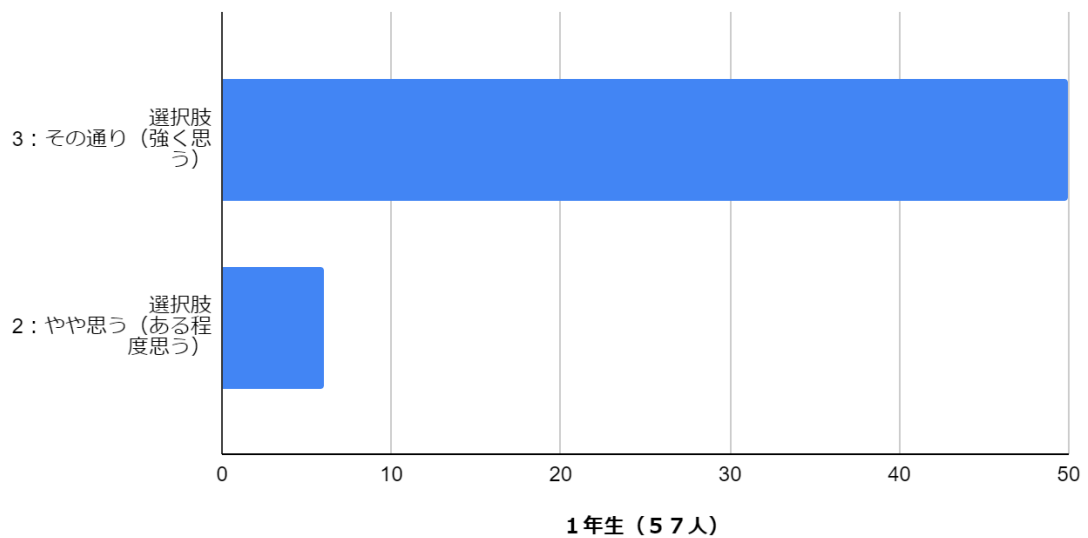
「13.自分から取り組む姿勢を身につけたい。（自主性・挑戦心）」



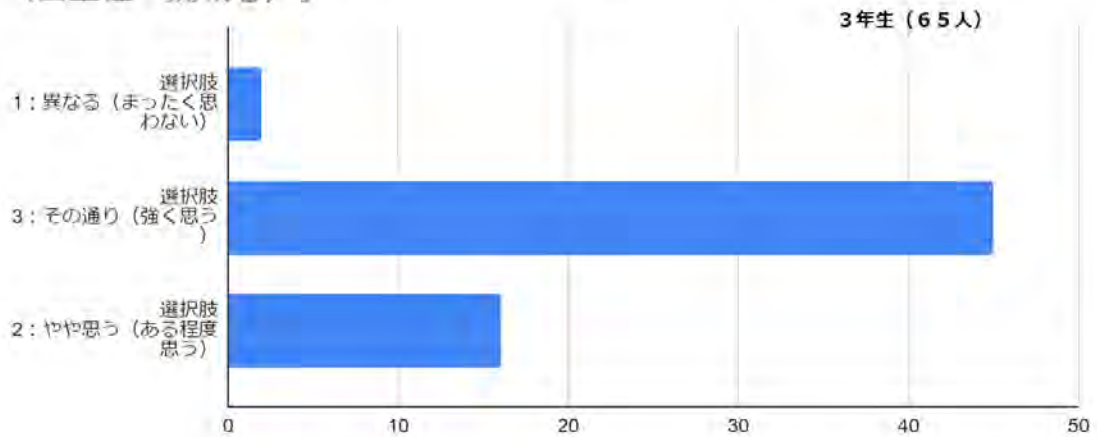
「13.自分から取り組む姿勢を身につけたい。（自主性・挑戦心）」



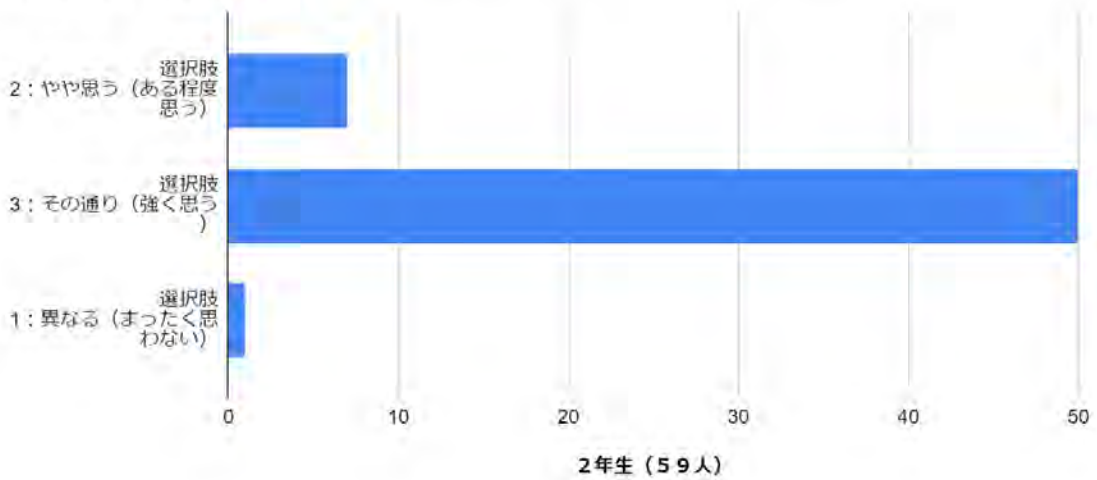
「13.自分から取り組む姿勢を身につけたい。（自主性・挑戦心）」



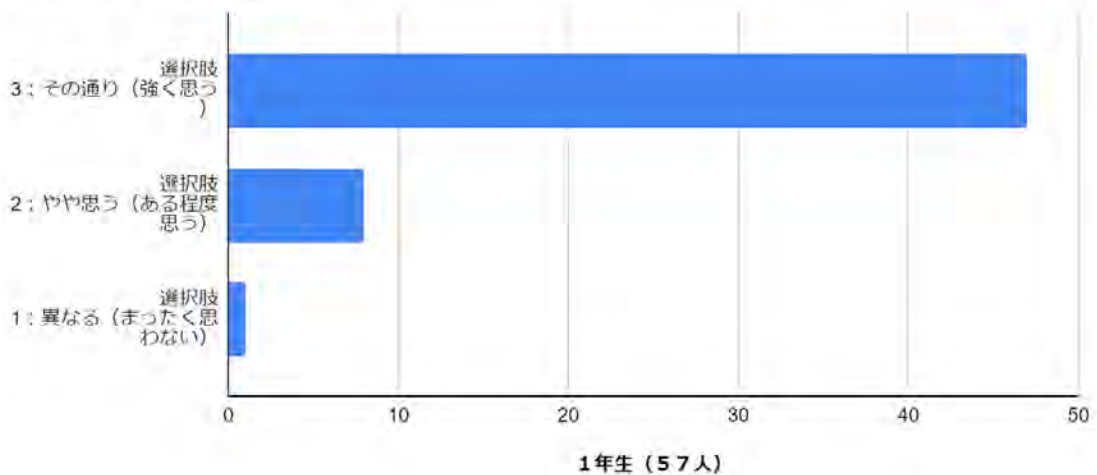
「14.途中であきらめず、粘り強く物事に取り組む姿勢を身につけたい。(自主性・挑戦心)」



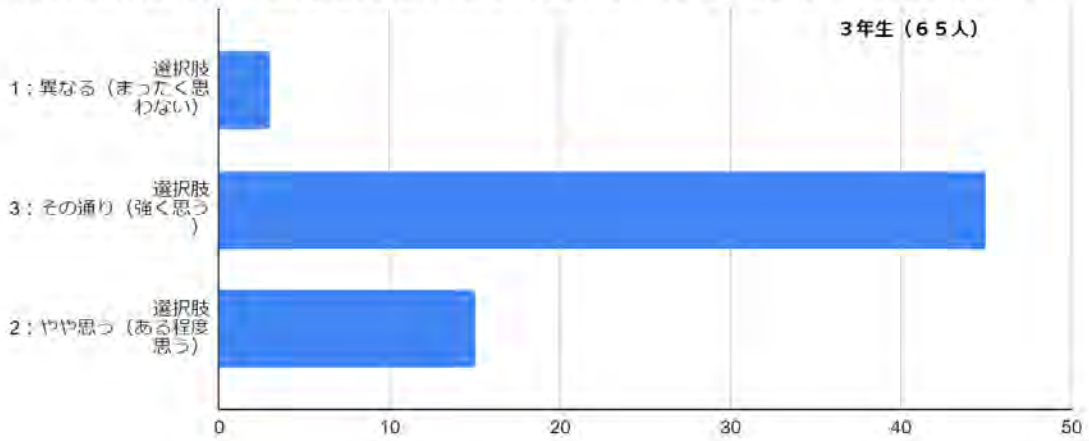
「14.途中であきらめず、粘り強く物事に取り組む姿勢を身につけたい。(自主性・挑戦心)」



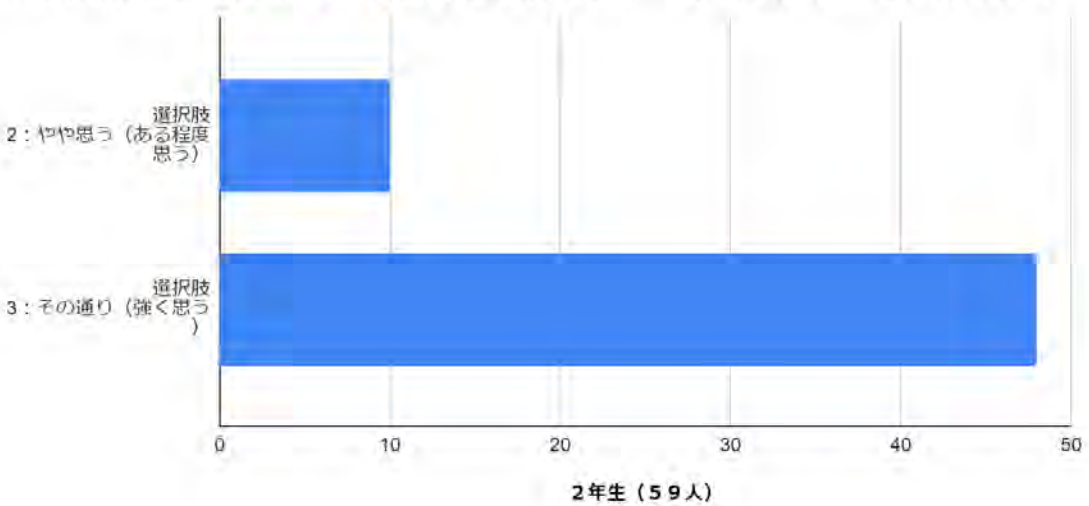
「14.途中であきらめず、粘り強く物事に取り組む姿勢を身につけたい。(自主性・挑戦心)」



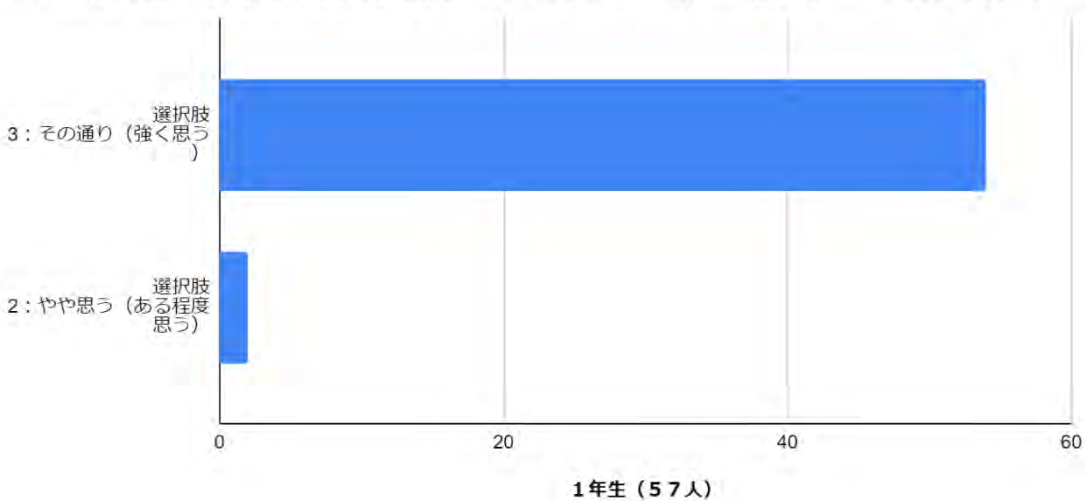
「15.成果を発表し伝える力を身につけたい。(プレゼンテーション力)」



「15.成果を発表し伝える力を身につけたい。(プレゼンテーション力)」

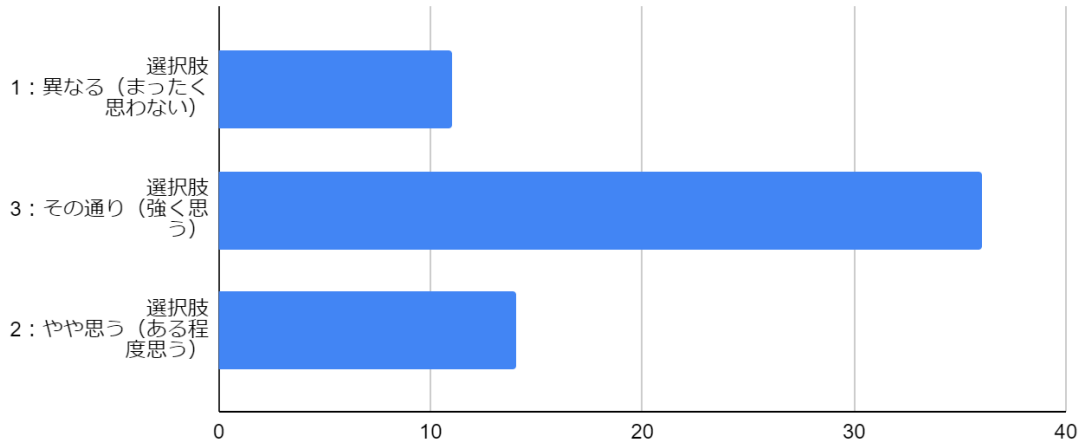


「15.成果を発表し伝える力を身につけたい。(プレゼンテーション力)」



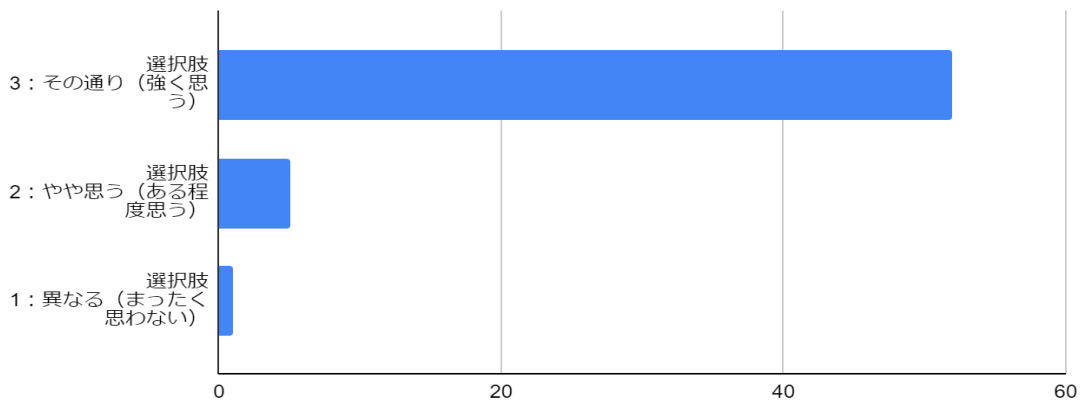
「16.グローバルな意識を持つことは今後の社会（どのような職種）においても大切である。」

3年生（65人）



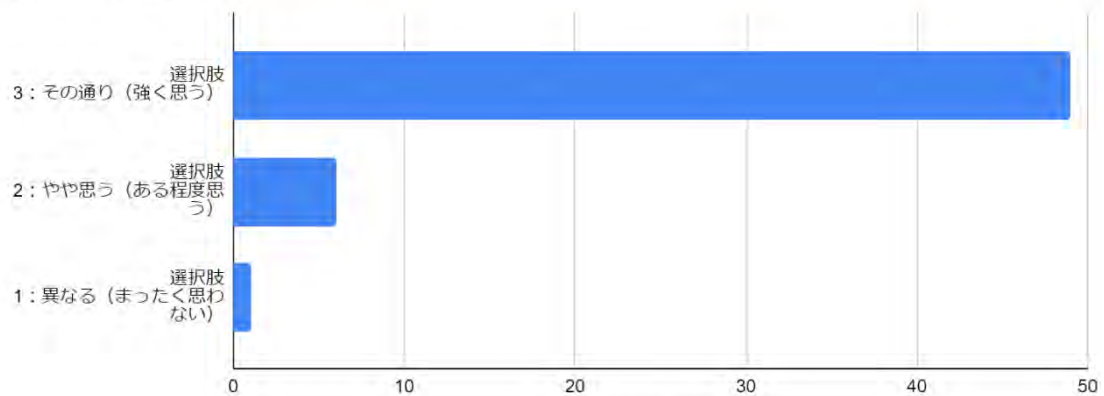
「16.グローバルな意識を持つことは今後の社会（どのような職種）においても大切である。」

2年生（59人）

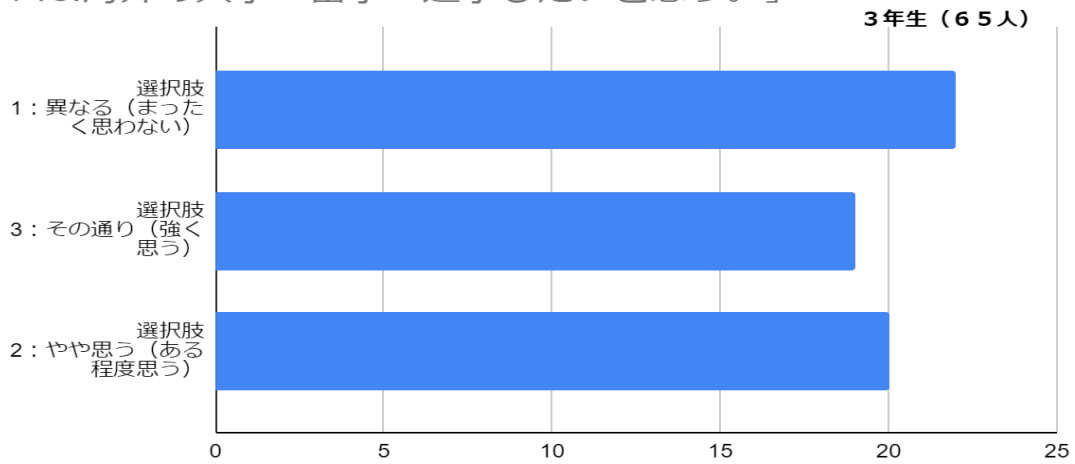


「16.グローバルな意識を持つことは今後の社会（どのような職種）においても大切である。」

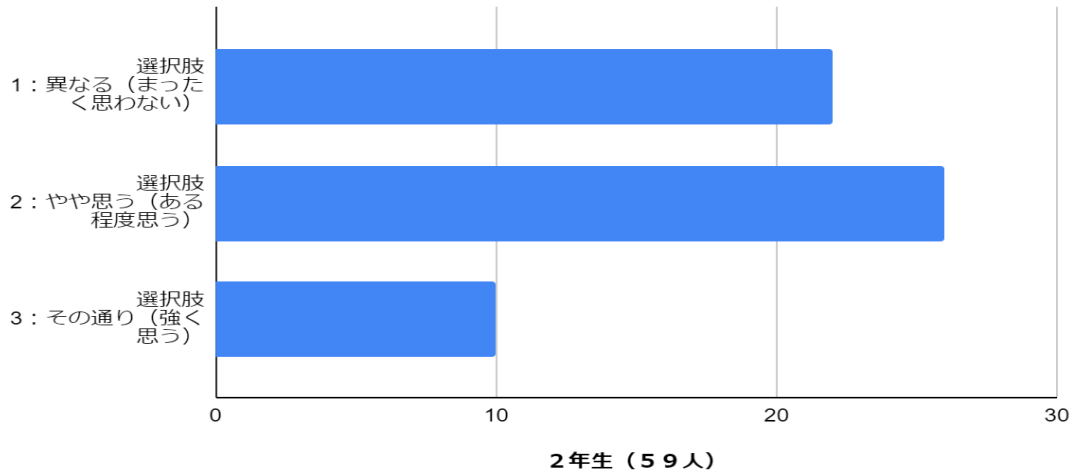
1年生（57人）



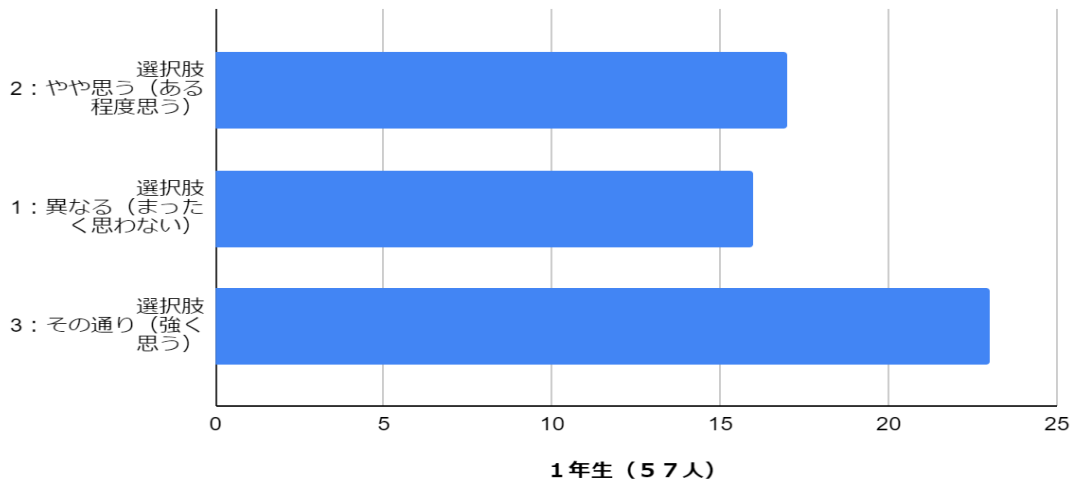
「18.海外の大学へ留学・進学したいと思う。」



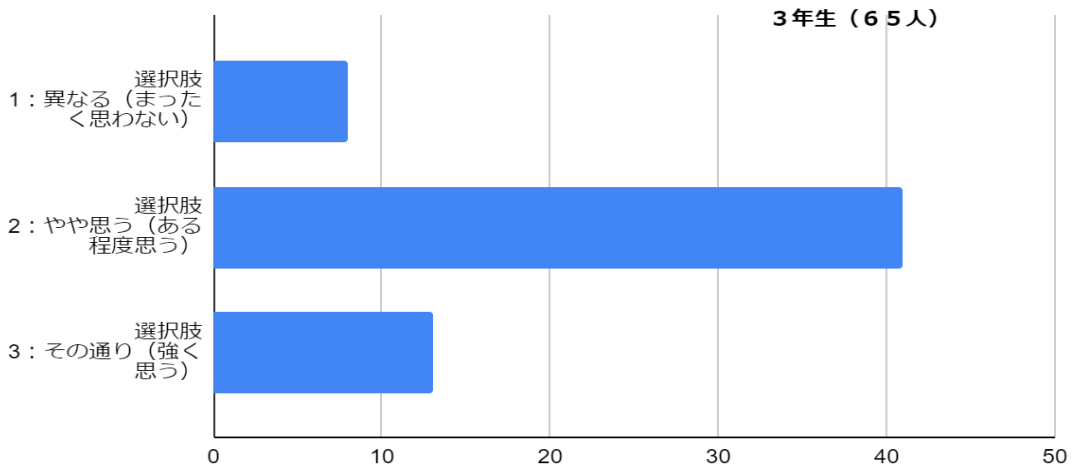
「18.海外の大学へ留学・進学したいと思う。」



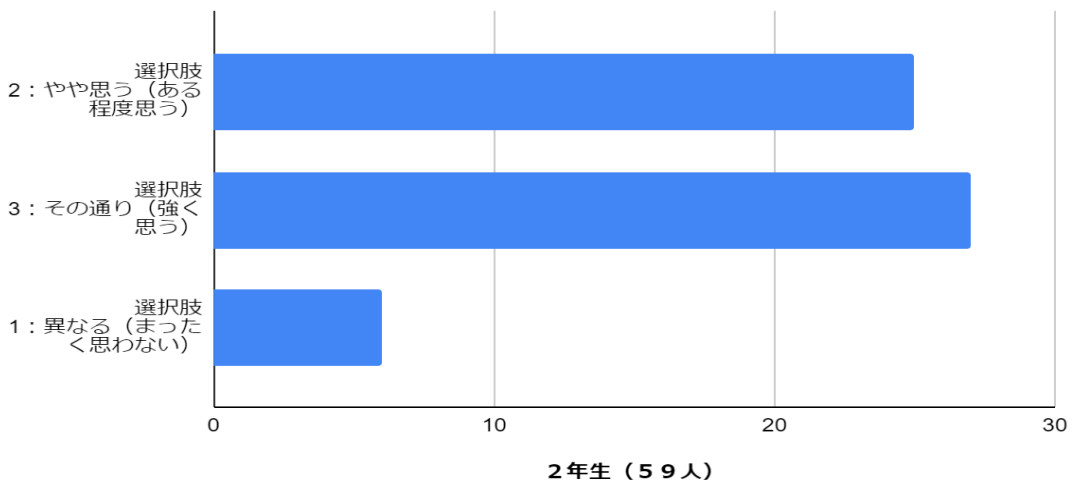
「18.海外の大学へ留学・進学したいと思う。」



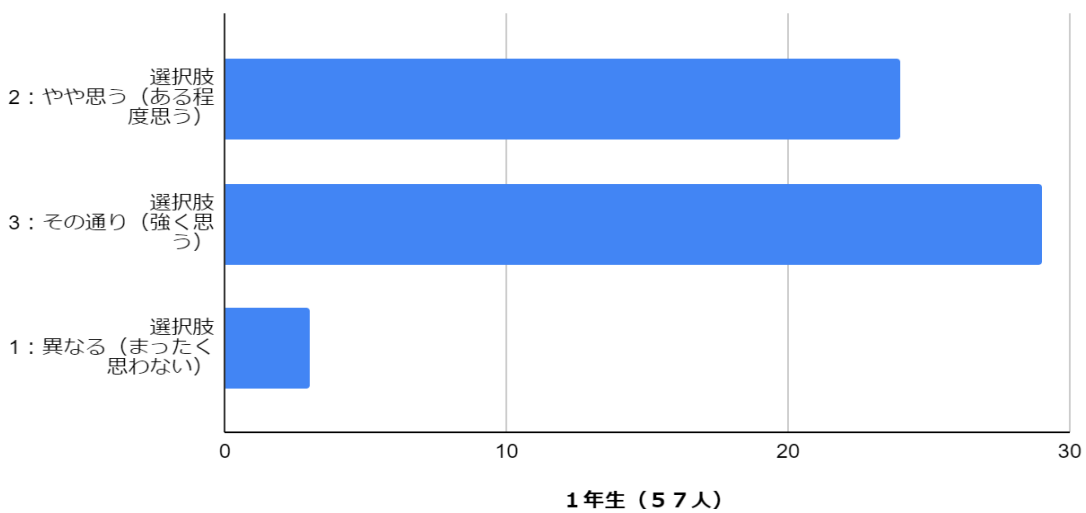
「19.探究科の活動を通して郷土愛が深まると思う。」



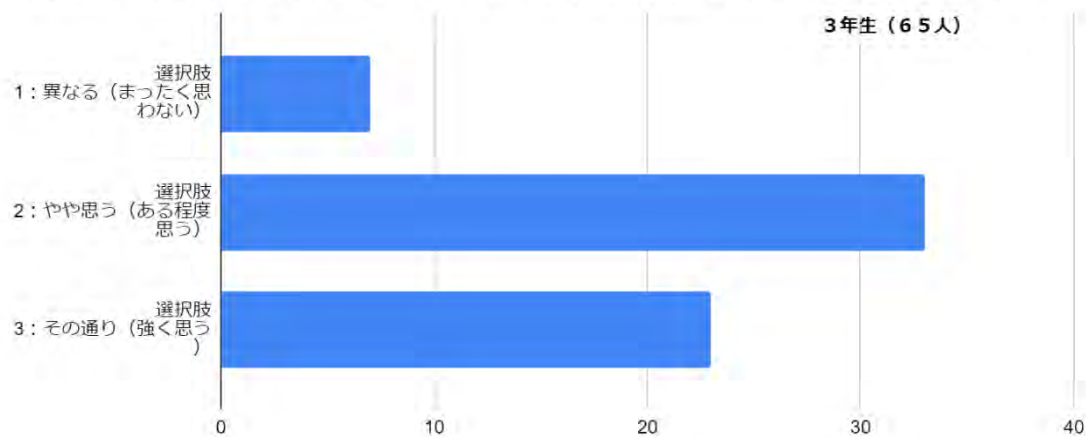
「19.探究科の活動を通して郷土愛が深まると思う。」



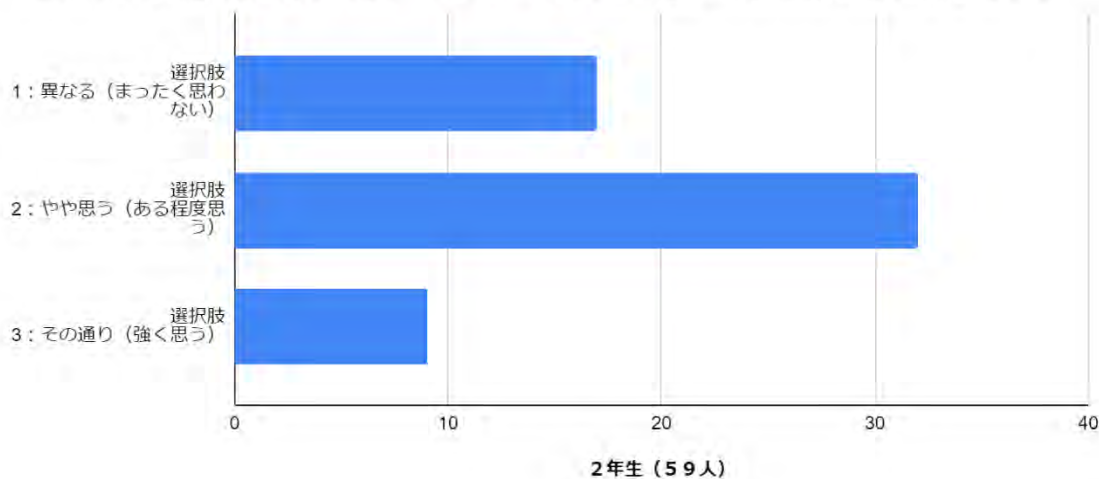
「19.探究科の活動を通して郷土愛が深まると思う。」



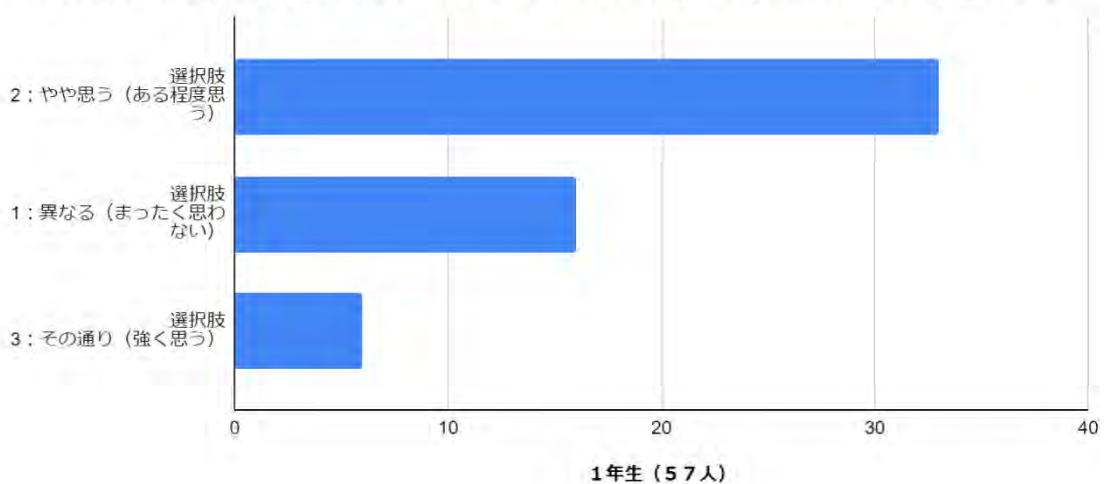
「23.標準的な英語であれば、ネイティブ同士の会話の要点を理解できる。」



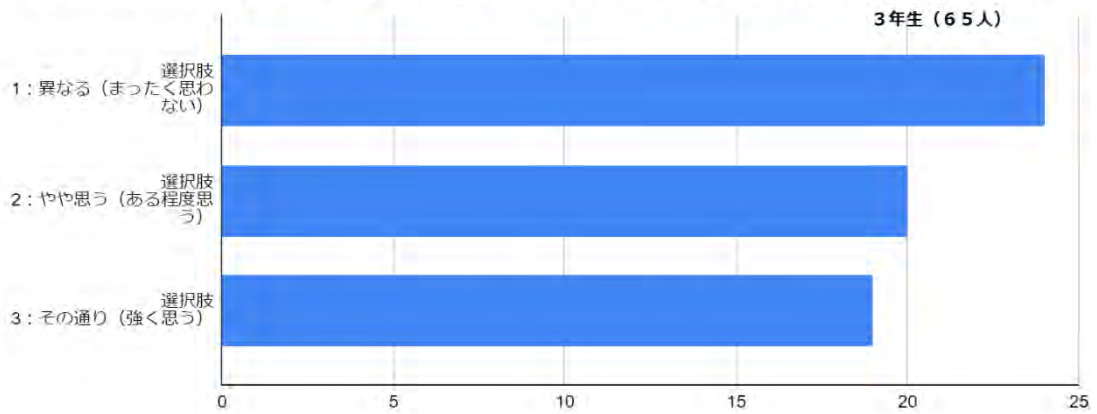
「23.標準的な英語であれば、ネイティブ同士の会話の要点を理解できる。」



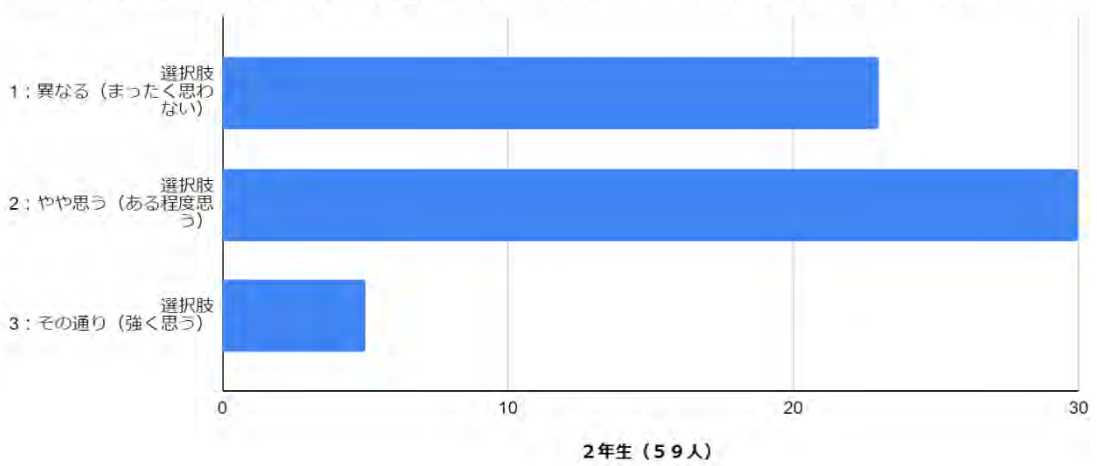
「23.標準的な英語であれば、ネイティブ同士の会話の要点を理解できる。」



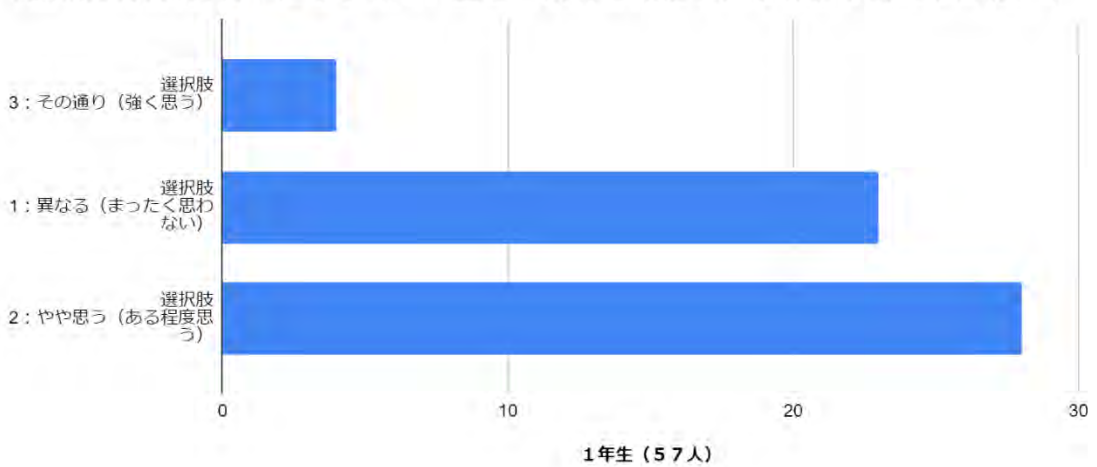
「24.馴染みのあるトピックなら、ニュースの要点について英語で議論できる。」



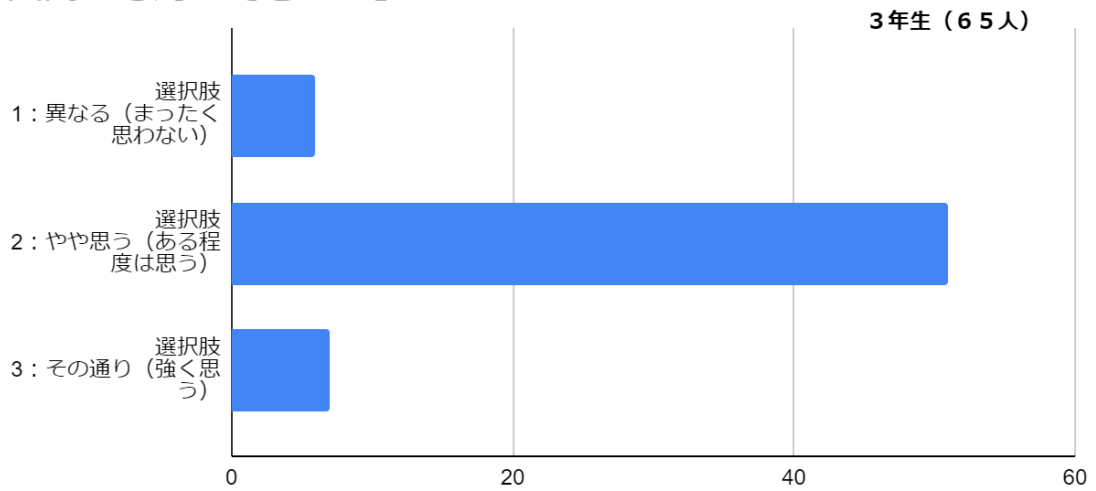
「24.馴染みのあるトピックなら、ニュースの要点について英語で議論できる。」



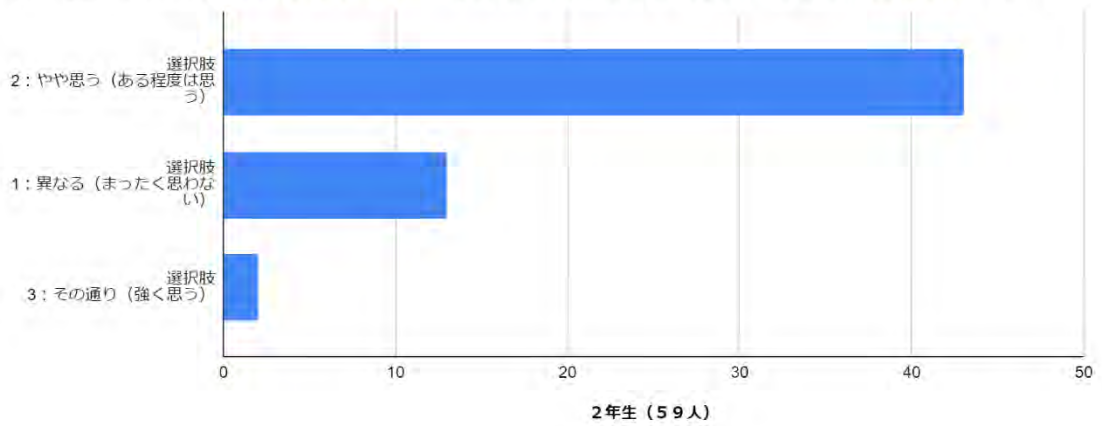
「24.馴染みのあるトピックなら、ニュースの要点について英語で議論できる。」



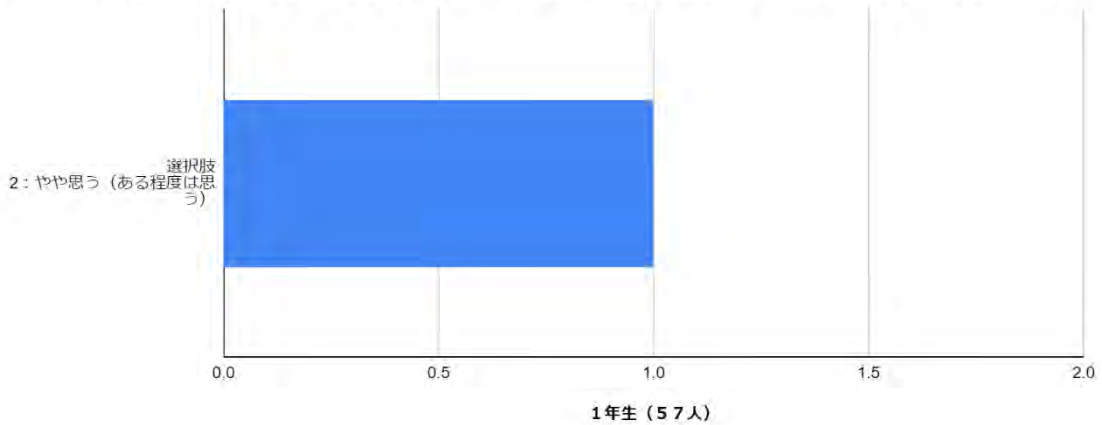
「25.事前に用意されたプレゼンテーションを流暢におこない、質問にも対応できる。」



「25.事前に用意されたプレゼンテーションを流暢におこない、質問にも対応できる。」



「25.事前に用意されたプレゼンテーションを流暢におこない、質問にも対応できる。」



2. 実施アンケートのまとめ

探究科全生徒に対して次の2つの項目についてアンケートを実施した。1. 本校の目標設定に関する項目について、2. 意識の変化、英語に関する項目について、その結果を示す。全ての質問事項については各質問の回答を学年ごとにまとめてあるので参照していただきたい。

まず、1. 本校の目標設定に関する項目についてであるが、質問番号1の3年間の取り組みを通して、論理的な思考力・判断力を高めたい。については、3学年全体で92%の生徒が肯定的に考え探究活動を行っている。さらに強く思うと答えた生徒は20%である。学年ごとに見てみると、1年生では100%の生徒が肯定的に考え、28%の生徒は強く肯定的に考えており、今後の探究活動で大きな成果を残してくれるのではないかという期待が大きい。

質問番号9の山梨県のことに興味・関心があるかの問いに対しては、探究科全体の89%の生徒が興味・関心があり、30%の生徒は特に興味・関心が強い。また探究活動を行うにしたがって(学年が上がるにしたがって)興味・関心が強くなっている。アンケート結果から本校探究科の探究活動の目標については、入学してくる1年生はある程度理解して入学し、入学後の活動を通して一層の理解・共感をし、自身の進路実現に繋げていると感じる。

質問番号10の将来山梨県で働きたいと考えている生徒は少なく、3年生では40%、2年生36%、1年生67%が働きたいと思っていない。原因として考えられることは県内に魅力的な企業(働く場所)が少ないと考えているのではないかと思う。本校が探究活動を実施した1期生の生徒が2021年4月に就職する年齢を迎えた。約80名の卒業生の中で、在学中から山梨県に就職することを希望し、アナウンサーとして地元の放送局に就職した生徒、また高校在学中に行っていた探究活動の伝統工芸を受け継ぎたいとその道に進んだ卒業生もいる。探究活動が生徒に大きな影響力をもち、生徒が進路選択をするときの一助になっている。探究活動を実施することが、自身の進路に良い影響がでると考える生徒は、3年生で95%、2年生では97%、1年生では100%の生徒が肯定している。

次に英語(海外)に関する項目についてであるが、新型コロナウイルスの影響が大きく、海外に進学、留学を希望する生徒、海外で働くことを希望する生徒の数は、減少している。またどうしたいか迷っている生徒の数が、少しではあるが増えてきている。今年度に関しては、3年生の15%、2年生の27%、1年生の16%が将来グローバルな進路・職種を考えてはいないと回答している。しかし英語の学習については積極的に考えていて、英語検定の資格についての問いに対しては90%以上の生徒が高校在学中に準1級取得を目指している。また、中学校卒業時にすでに準1級を取得して入学する生徒も少数ではあるが増えている。これは、本校探究科の2年生において年度最後の発表会「山梨ブランドサミット」においての英語での発表の効果であると考えている。



■各学年の発表概要(主旨)

1年	★発表12分以内(質疑反駁8分程度。積極的な発言をお願いします。) 1年生は探究活動の考え方や基礎基本を学ぶため、前半は「農」をテーマに全員で取り組みました。本県の現状を踏まえ、農業の抱える課題を様々な角度から分析・調査し、発表することで論理的な思考力、実践的なコミュニケーション能力を育ててきました。後半は、12班に分かれ、農業から派生した任意の課題を設定し、問いを立て、解決のためのプランを構想してきました。
2年	★発表12分以内(質疑反駁8分程度。積極的な発言をお願いします。また、英語での発表となります。できたら英語での発言をお願いします。) 2年生は15班に分かれ主体的に社会課題を設定し、解決のためのプランと並行させながら探究を続けてきました。「課題は現場にある」とよくいわれますが、コロナ禍の中、県内の実地調査(企業訪問やインタビュー活動)を経ながら内容をブラッシュアップしてきました。また、イングリッシュプレゼンテーションセミナーをへて、国際的なコミュニケーション能力の育成にも力を入れてきました。
3年	★発表12分以内(質疑反駁8分程度。積極的な発言をお願いします。) 3年生は、今までの探究成果をポスターと論文にまとめました。また、探究成果を企業や行政、大学等に提案する「ファイナルプロポーザル」で探究を締めくります。中にはイベントを実施した班もあります。なお、今回のブランドサミットでは、既に進路が決定している生徒10名、5グループの発表となります。

★午前分科会 タイムスケジュール

①10:00~10:25 ②10:35~11:00 ③11:10~11:35 ④11:45~12:10

■3年生(分科会)

班	会場	発表時間帯	言語	SDGs	社会課題探究テーマ *発展探究と付した発表→新規、もしくは進路やキャリアに照らした内容に発展させて発表します。
1	2年5組	④	日	11	魅了される街 私たちは、SDGs11に目を向け、人口減少や後継者不足等の社会課題を抱える商店街の活性化にデザイン面から貢献したいと考えている。そして同時に、人々を魅了するデザインとは何かを追究していきたい。
2	2年2組	③	日	17	ゲームで学ぶ! SDGs 理解できているようで、理解できていないSDGs。今回、ゲームを通じてSDGsを学び、社会的な課題解決のノウハウを実践的に習得できるよう企画しました。みんなで楽しみながらSDGsを学びましょう!
3	視聴覚室	②	日	13	ZERO WASTE ごみゼロって実現できるの? 気候変動の深刻化を受けて、世界各地でゼロ・ウェイスト宣言が掲げられています。まずは、ゴミとは何かを見つめ直し、日本の現状を知ること。そしてごみゼロの実現を目指して私たちにできることを考えよう!
4	2年3組	②	日	4	最強の英単語帳 受験期を振り返ると、もっと効率よく学習できれば...と思ってしまいます。これから受験生となる方にはこのような思いを抱いてほしくありません!そこで、元受験生の我々から最強の英単語帳を提案させていただきます!
5	2年4組	④	日	14	海洋プラスチックごみ問題について私たちにできること 近年プラスチックごみが海を汚染している問題が世界で注目されています。川から海へとプラスチックごみが流れていくので、海のない山梨県もこの問題に関りがります。そこで、私たちでも実践できる対策を紹介します。

■3年ポスター・論文/2年成果物展示/1年ポスター展示

北館3階 コモンスペース	3年生の集大成となるポスターと論文、2年生の探究レジュメ、1年ポスター及び、各学年探究活動実績報告書、成果物を展示しています。 (*ポスターの展示は当日の午後からとなります)
--------------	--

■2年生(分科会)

班	会場	発表時間帯	言語	SDGs	社会課題探究テーマ
1	1年2組	②	英	4	Enjoy Speaking English 私たちは、今の英語の授業に疑問を感じています。それは、授業中に「英語を話す」機会が少ないことです。これは英語を話すことに慣れず、実際のコミュニケーションで話せないことにつながりかねません。そこで、私たちは英語を話す機会を増やした授業を考案し、提案していきたいと考えています。
2	2年2組	①	英	3	Spreading Generic Medicine~Raise the usage on children~ 高齢化による医療費増加の現状で、私たちの未来のために、山梨県でのジェネリック医薬品の使用率、特に子どもの使用率を上げるにはどうすればよいかを探究しています。
3	2年4組	①	英	8	The labor shortage of farmers 山梨県には「桃」という世界に誇れる特産物がある。しかし現在、桃農家を始めとする多くの農家は人手不足という深刻な問題に直面している。このままでは山梨の農業は衰退し、桃も食べられなくなってしまうかもしれない。そこで、私達はマッチングアプリを用いてその問題を解決したいと考えた。
4	1年1組	①	英	11	Small Hydropower Generation 私たちは小水力発電を切り口として再生可能エネルギーを普及している。現在、日本は限りある資源を必要とした発電を行っている。しかし、それは持続的ではない。そこで、私達は街灯をイメージした発電機を作り、再生可能エネルギーを身近にすることでその課題を解決したいと考えた。
5	2年3組	④	英	9	Agriculture x IoT 農業従事者数の減少と農家の高齢化による農業の衰退を食い止めるためには、肉体労働で不安定な収入という農業の固定的なイメージを払拭する必要があると考えました。そのためにスマート農業の導入を促進し、新しい農業のイメージを広めていく探究を行っています。
6	1年2組	①	英	11	"The MITAKE-OLD-ROAD" remains North of Yamanashi. 富士山観光の一極化により他の歴史を持つ観光地の衰退という課題が生まれた。その代表的な地の1つである山梨県北部の「御嶽古道」に焦点を当て、後世に残す方法を探究している。この探究が全国の他の歴史を持つ地の復興のプロセスになることを願う。
7	視聴覚室	④	英	11	Support for Single Parent Families Using Children's Cafeteria 子ども食堂を使った山梨県のひとり親家庭の支援数を増やすためにはどうしたら良いか。自分たちが実際に現場の声を聞きながら探究をしています。
8	1年4組	④	英	4	Siesta PROJECT Naps Change Japan? 「昼寝しちゃった...」と思ったことはありませんか? 私たちは皆さんの昼寝に対するイメージを180度変え、その素晴らしさを全力でお伝えします!!また、昼寝のお助けアイテムとしてアプリもつくりました! このアプリは、昼寝を習慣化させ、興味のない人でも昼寝を取り入れてもらえるものになっています。
9	2年1組	③	英	11	Depopulation x Local event 現在、山梨県のあらゆる地域で人口減少が進行している。しかし、人口減少問題は複雑かつ規模の大きい問題であるため、容易な解決は望めない。したがって、そのような地域はどのように人口減少問題と付き合っていくべきか。という問いを立て、地域コミュニティの活性化という視点から探究を行った。
10	1年5組	④	英	3	GAME X HEALTH 高齢化が進む山梨県で、高齢者が健康に余生を過ごすためにはどうすれば良いか。ゲームの活用という若者の視点から探究をしています。
11	1年3組	②	英	8	POWER OF MUSIC ~Relationship between music and appetite~ 音楽の実用性の幅を探索し、日々の生活をさらに良いものにするにはどうしたら良いか。音楽 x 食事という観点から音楽を変えることによって私たちにどのような変化が起こるのか探究しています。
12	1年5組	②	英	12	Life with my bottle 現在便利さ、手軽さから多くの人がプラスチックに頼り、その結果大量生産、大量消費の社会が形成されています。このままの生活スタイルでは環境に悪影響を与え続けてしまいます。私たちはマイボトルに着目し、プラスチックごみの削減について探究を行っています。
13	1年1組	④	英	11	To decrease Disaster-related deaths by improvement of shelters 私たちは、日本の避難所の現状を詳しく調べ、「災害関連死」という、災害に直接関係なく、避難所の環境などで身体的・精神的ストレスを負い亡くなってしまうことがあった。そこで私たちは、コロナ禍で注目が高まるようになったホテル避難を検討し、山梨県での推進をして行こうと考えた。
14	2年5組	③	英	4	Let's study on my own! ~ children's habituation of home study ~ 私たちは、家庭環境の違いによって生まれる子どもの学習機会の格差を減らしていくことを目標としています。現代のコロナ禍では特に非認知スキルの低下が問題であると考えたため、子どもたちが密集せずに行える身近な体験活動や場所をまとめた新聞記事を作成し、推進しています。
15	2年1組	②	英	15	Using sound to control birds and animals~Using sound to stop deer damage to crops.~ 私たちは、動物、特にシカに対する音を用いた鳥獣対策に取り組んでいます。既存の音を用いた鳥獣対策ではその音に慣れてしまい、効果がなくなってしまいます。そこで、私たちは、鹿に慣れない音や そのシステムを考案し、実施していきたいと思っています。

■1年生(分科会)

班	会場	発表時間帯	言語	SDGs	社会課題探究テーマ
1	1年3組	①	日	8	ネガティブ連鎖を断ち切ろう 学校や職場での話し合い、意見がまとまらない苦勞は誰もが経験したことがあるはずだ。どうすればスムーズな話し合いにできるのだろうか。うまくいかない原因の一つに「ネガティブ連鎖」という感情の伝染作用があると考え、より建設的な話し合いや、円滑なコミュニケーションを図るための方法について探究を進めてきた。
	視聴覚室	③			
2	視聴覚室	①	日	9	はんこ文化の継承 山梨県の伝統産業の一つであるはんこ文化。政府が押印廃止を提唱する中で受け継がれてきたはんこ作りの技術を守るために私達は伝統を守りながら発展していける新しいはんこ文化のあり方を考え、伝統産業とデジタル化の共存を目指します。
	1年1組	③			
3	1年4組	①	日	4	最高の学校スケジュール 「学校を家より楽しい場所に」という目標のもと、集中力の継続する授業や学習サイクルの組み立てについて探究活動を行っています。今年度は午後の授業の眠気に着目し、調査・実証実験を行い、昼休みの過ごし方の改善をおこなった。
	2年4組	③			
4	2年5組	①	日	11	棚田資源と地元食材を利用した「お結び」による結の継承及び山梨の食文化の活性化 地域間で互いに支え合う地域コミュニティである結文化の継承と活性化を念頭に置き探究しています。甲斐市にある御料棚田の米を使ったお結びの販売と田植え祭りの開催を考えています。その後この米とお結びを企業と連携して販売していきたいと考えている。
	2年1組	④			
5	1年1組	①	日	11	道の駅を道の益に 道の駅をい活かした町づくりで山梨を活性化 道の駅を利用したことはありますか？道の駅と耳にして、どのような光景を想像しますか？道の駅を「地域に愛されるコミュニティ」にし、道の駅を中心とした街づくり・山梨の活性化をしよう。と考えています。道の駅が地域内の繋がりをより強固にするための存在となるよう探究活動をしていきます。
	1年5組	③			
6	2年1組	①	日	13	小水力発電 日本を含む多くの国では地球温暖化対策が現在も進んでおらず、状況は悪化の一途をたどっている。そこで私達は、環境負荷の少ない小水力発電に注目し、その普及に取り組むことを探究課題にした。
	2年3組	③			
7	1年4組	②	日	11	首都山梨 山梨県の人口減少問題を探究課題として、行政・教育機関等の人口減少問題の取組を調査し、「これから山梨県から転出する可能性のある高校生」としての立場から何が出来るのかを考えた。
	1年3組	④			
8	2年2組	②	日	12	家庭の生ごみに対する意識を変えよう 生ごみは水分が多く、現在の焼却処分では多くのCO2が排出される。生ごみを堆肥化する循環型処理方法を推進し、CO2の削減を目指す。
	1年2組	④			
9	1年5組	①	日	10	鬼ごっこU100 私達は様々な人が同時に楽しむことができる鬼ごっこのルールがないということに目を向けて年齢、障害に関係なく楽しむことが出来るような鬼ごっこの実現を目指している。鬼ごっこは多くの人が知っている遊びであり、かつルールを考察するうえで汎用性が高いため鬼ごっこを通して様々な人と楽しむ「あそび」をつくっていきたくと考えている。
	1年4組	③			
10	2年5組	①	日	11	知る・行く・繋げる昇仙峡 私達は昇仙峡に今ある魅力を大切に昇仙峡の観光について探究しています。特に昇仙峡と一高は歴史的に深い関わりをもっていきます。そんな昇仙峡の観光を盛り上げるために私達に何が出来るか考えています。最終的には、昇仙峡を山梨を代表する観光地にしていきたいです。
	1年2組	③			
11	2年3組	①	日	4	あなたに合った読書のカチをお届けします。 私達は幼い頃から「読書はいい」と言われるが、その理由が明確にわからないことに気づいた。また、年々読書をする人が減少している事が分かった。生活スタイルや「読書のカチ」を推奨すれば、読書に親しむ人が増えるのではないかと考え、SNSなどのツールを通して発信していく。
	1年3組	③			
12	2年4組	②	日	4	教えて学ぶ 大学入試制度改革や定期試験、模擬試験など近年私たちが受ける試験が思考力を問う問題が多くなっている。私達はどのような勉強方法が効果的なのかを探究課題とした。その結果、生徒同士が互いに勉強を教え合うことにより、より学びが深くなる事が分かった。
	2年2組	④			

★午前分科会 タイムスケジュール

①10:00~10:25 ②10:35~11:00 ③11:10~11:35 ④11:45~12:10

■各学年代表発表会(全体会)

班	会場	発表時間帯	言語	SDGs	社会課題探究テーマ		
1年9班	視聴覚室	全体会	日	10	鬼ごっこU100 私達は様々な人が同時に楽しむことができる鬼ごっこのルールがないということに目を向けて年齢、障害に関係なく楽しむことが出来るような鬼ごっこの実現を目指している。鬼ごっこは多くの人が知っている遊びであり、かつルールを考察するうえで汎用性が高いため鬼ごっこを通して様々な人と楽しむ「あそび」をつくっていきたくと考えている。		
2年10班					英	3	GAME×HEALTH 高齢化が進む山梨県で、高齢者が健康に余生を過ごすためにはどうすれば良いか。ゲームの活用という若者の視点から探究をしています。
3年1班					日	11	魅了される街 私たちは、SDGs11に目を向け、人口減少や後継者不足等の社会課題を抱える商店街の活性化にデザイン面から貢献したいと考えている。そして同時に、人々を魅了するデザインとは何かを追及していきたい。

■招聘校発表会(全体会)

昭和町立西条小学校5年 田中大地さん	17	小5の僕にできるSDGs 小学3年生のころにSDGsを知り、どうしてSDGsに取り組みうと思ったのかを振り返ります。そして、これまで僕がしてきたSDGs活動「ゴミ拾い登校」「SDGsマージャン」「児童会への挑戦」などについてと、これからしたいことを発表します。
県立笛吹高等学校 稲葉美咲さん 米倉祐真さん 花田玲臣さん	16 18	御坂山地のスズラン群生地の保全 御坂山地芦川流域には東日本有数のスズラン群生地がある。2019年4月、笛吹市の依頼を受けて群生地の保全について調査してきた。具体的には、①スズランの好適な生育環境の解明、②スズラン群落の植生学的解析、③保護上重要な植物の植物種の探索、④群生地の維管束植物目録・花暦の作成、⑤地域社会への研究成果の還元、等に取り組んだ。



探究科の社会課題設定

▶1 上位課題 SDGs(SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS)

世界の貧困削減や保健衛生、教育普及など、国連は2015年までの達成目標(ミレニアム開発目標・MDGs)を掲げていましたが、度重なる世界の変化、例えば財政危機や自然災害など新たな課題が山積しました。そこで、2015年以降に新たな目標を打ち立てる必要に迫られました。それが「持続可能な開発目標(SDGs)」です。2012年の国連会議「リオ+20」において合意され、現在17の目標が打ち立てられています。先進国にも相応の役割が求められているのです。DOORプログラムで掲げる上位課題は以下に示す17のコンテンツから選ぶようにします。

▶2 下位課題(中位課題)

上位課題に関連させ、もっと私たちの生活に隣接する課題、それを下位(中位)課題に設定します。例えば、本県の人口減の問題や、農業でいえば若者の就農問題といった克服すべき課題をさします。そしてプランニングでは下位(中位)課題の解決をめざし、さらには上位課題の克服(関与・影響)を目標にしていきます。そのようなスタンスを設定することで、グローバルビジョンを養っていきます。

令和3(2021)年度 教育課程表

教科	科目	1年(2021入学)		2年(2020入学)				3年(2019入学)			
		普通科	探究科	普通科		探究科		普通科		探究科	
		文理	社会・科学	理系	文系	社会探究	科学探究	理系	文系	社会探究	科学探究
国語	国語総合	5	5								
	国語表現										
	現代文B			2	3	2	2	2	2	3	2
	古典B			2	3	3	2		4	4	3
	*古典研究							3			
	*現代文批評									2	
地理歴史	世界史A	2	2								
	世界史B				3				4		
	日本史A				2	2			4		
	日本史B				3						
	地理A			2		2	2				
	地理B							3			3
	*世界史研究									3	3
*日本史研究									3		
公民	現代社会			2		2	2		3	3	
	倫理							3	3		
	政治・経済				2	2		3	3		3
数学	数学Ⅰ	3									
	数学Ⅱ	1		3	3						
	数学Ⅲ			1				5			
	数学A	2		1							
	数学B			2	2						
	*数学研究							3			
	*総合数学A							5	5		
	*総合数学B							2			
*総合数学C							2				
理科	科学と人間生活		2								
	物理基礎			2							
	物理			2				4			
	化学基礎	2	2	2				4			
	化学			2				4			
	生物基礎			2	2	2					
	生物			2				4			
	地学基礎				2						
	*生物基礎探究								2	2	
	*化学基礎探究								2	2	
*地学基礎探究								2			
*理科研究							3				
体育	体育	3	3	2	2	2	2	2	2	2	
	保健	1	1	1	1	1	1				
芸術	音楽Ⅰ	2	2								
	音楽Ⅱ								2		
	*音楽表現								3		
	美術Ⅰ	2	2								
	美術Ⅱ								2		
	*美術制作								3		
	書道Ⅰ	2	2								
書道Ⅱ											
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	4									
	コミュニケーション英語Ⅱ			4	4						
	コミュニケーション英語Ⅲ							4	4		
	英語表現Ⅰ	2									
	英語表現Ⅱ			2	2			2	3		
	*英語研究								4		
家庭	家庭基礎	2				2	2				
	子どもの発達と保育								3		
	フードデザイン								2		
情報	社会と情報	2	1(1)■								
探究	理数数学Ⅰ		5								
	理数数学Ⅱ					4	4			2	5
	理数数学特論		1			2	2			2	2
	理数物理							4			4
	理数化学						2				4
	理数生物						4				4
	総合英語		4								
	英語理解									4	4
	英語表現		2			2	2				
	異文化理解									3	2
	*AP English					4	4				
	*歴史研究Ⅰ					3					
	*歴史研究Ⅱ									4	
	*グローバル公共					1	1				
*グローバル探究Ⅰ		2■									
*グローバル探究Ⅱ					1■	1■					
*グローバル探究Ⅲ									1■	1■	
ホームルーム活動	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
総合的な探究の時間	1	(1)■	1	1	(1)■	(1)■	1	1	(1)■	(1)■	
合計単位数	33	33	33	33	34	34	33	33	33	33	
備考	<p>授業を「55分」で実施するが、「50分」を1単位時間として単位認定を行う。</p> <p>普通科：理系2年次、理科；「物理選択者」は、前期で「物理基礎」2単位履修を終え、後期に「物理」2単位を履修する。「生物選択者」も前期で「生物基礎」2単位履修を終え、後期に「生物」2単位を履修する。なお、物理選択者の「生物基礎」2単位および生物選択者の「物理基礎」2単位については、通年での履修となる。</p> <p>普通科：文系3年次；「理科・英語」選択については ①生物基礎探究(2単位)＋「化学基礎探究or地学基礎探究(2単位)」 ②英語研究(4単位)となる。また、3年次；「総合数学A」を選択しない者は、各類型(人文社会・芸術・家政)の2単位及び3単位を選択する。</p> <p>探究科：理科の必修は「科学と人間生活」および「化学基礎」の2科目で実施する。</p> <p>社会探究コースの2年次、「政治経済」選択者は、3年次に「現代社会」か「倫理」の選択をする。(「地理B」は選択できない)</p> <p>・グローバル探究Ⅰ (2単位)；「社会と情報」の1単位と「総合的な探究の時間」(1単位)により構成・実施する。</p> <p>・グローバル探究Ⅱ (1単位)；「総合的な探究の時間」(1単位)を呼称する。</p> <p>・グローバル探究Ⅲ (1単位)；「総合的な探究の時間」(1単位)を呼称する。</p> <p>「AP English」は「Advanced Practical English」の省略である。</p>										



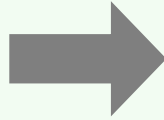
はんこ文化の継承 ~はんこの行方~

山梨県立甲府第一高校 1年2班 山田真緒 中川真緒
長田侑久 高原瑛都 米山朱音

<探究の背景>

リモート出勤の増加

デジタル化の推進



ビジネスでの押印廃止

<目的>

デジタル化を妨げずに、山梨県の
伝統産業であるはんこの文化を守ること

行政では河野太郎元規制改革担
当大臣が不必要なはんこ利用を
廃止するよう主張した。

<課題>

上：SDGs No.9 産業と技術革新の基盤を作ろう

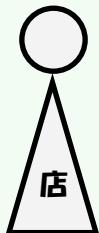
中：伝統産業とデジタル化の共存

下：デジタル化によってはんこが使われなくなっている

<仮説>

はんこの魅力を伝えることで、はんこ文化は残るのではないか。
〔「はんこ」とは実印登録ができるもの〕

<実地調査>



- ・はんこを複製で作ることも多い
- ・伝統のある昔からの字を使う
- ・社内では、はんこは残さなくていい

<調査・探究>

押印廃止のメリット →ペーパーレスになる
→リモートワークの効率が良くなる
はんこがないと…米国などでは公証人が必要になってくる

はんこの魅力 →個人の証明ができる（実印登録より）
…シャチハタとの違い
→責任を示せる
→伝統と芸術性のある文字・素材

<提案> デジタル化の中で、はんこ文化を継承させていくのは難しい。
ビジネスや公的な場ではなく、プライベートを
楽しむための使い方を提案する。

①魅力を再発見する

②はんこの今までの使い方と新しい使い方を広める

③はんこに興味がある人々にもっと魅力を 知ってもらえるような機会を提供する

現在、脱はんこムーブメントにより、はんこのデメリットばかりに注目されている。しかし、はんこは承認機能だけでなく、文化としての機能も担っている。よって、はんこ文化を残していくべきである。

<参考文献>

「はんこと日本人」著：門田誠一 吉川弘文館
「ハンコロジー事始め」著：新関欽哉 日本放送出版協会
協力 日新印章 〒400-0858 山梨県甲府市相生1-15-12





最高の学校スケジュール

—家よりも楽しい場所へ—

1年3班 小林奏穂 荒神桜雅 藤巻勇登 茅野智治 丹羽七海



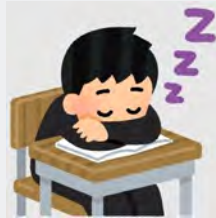
下位：充実した学校生活を

中位：成績向上

上位：効率のいい学習習慣を身に着ける

1. 探究背景

- ・ 学習、部活動、インターネットの使用などによる睡眠不足
- ・ 高校生の不健康な生活リズムやストレス
- ・ 朝早く起きるのが大変
- ・ 55分授業が長い
- ・ 昼休みが昼食でなくなってしまう



2. 目的

- ・ 学習効率の向上
- ・ 有意義な学校生活を送る

3. 探究計画

昼休み後の午後の授業の充実

昼食の取り方、昼休みの過ごし方の改善

5. 探究結果

実証実験

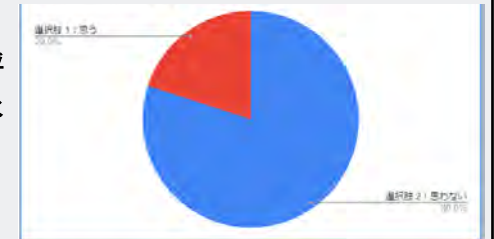
2022年2月の1カ月間、1・2年生を対象に、昼休みに会議・テスト・呼び出し等一切を中止するという実証実験を行った。しかし、実証実験は分散登校の影響で満足に行うことはできなかった。

事後アンケートでは、午後の授業の準備や休息に時間を使えるようになったという回答を得られた。また、昼寝に関して生徒の意欲・関心はあまり高くなかった。

まとめ

事前アンケートによると、昼休みはそもそも呼び出しが少ないため、学校生活の中で改善すべきは他の時間帯にあるという結論に至った。

会議や呼び出しが多く、昼食をゆっくり食べられない

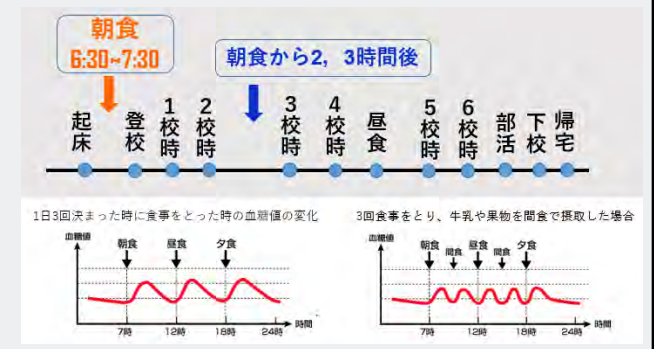


6. 今後の展望

食後2時間経過すれば、血糖値は急激に上昇することはなく、空腹時間を減らすことで血糖値の安定に繋がる。

事後アンケートより、学校にいる間に間食を食べている人は半分未満だった。また、午前の授業中に空腹を感じて集中力が切れてしまうという人もいた。

これらの結果をもとに、来年度は間食という観点から授業の充実に向けた探究活動を行いたい。



7. 参考文献

- <https://www.asahi.com/relife/article/13228261> <https://mery.jp/2300809> https://www.med.or.jp/forest/health/eat/m08_02.html https://www.otsuka-plus1.com/shop/pages/soyjoy_lowqi.aspx <https://www.yomeishu.co.jp/health/3800/> <http://www.ee-life.net/hatena/kettouchi.html>

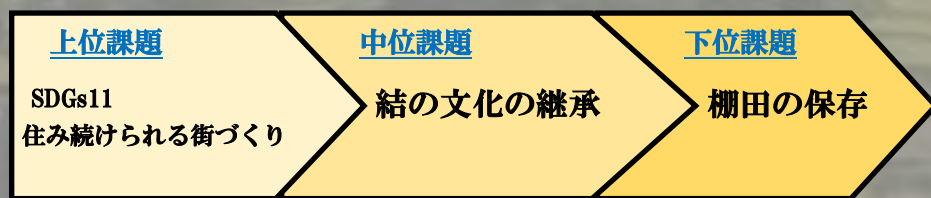
結～むすび～

地元資源の御領棚田の米を利用した「お結び」による
結の継承及び棚田の保存の探究について

<メンバー>

甲府第一高等学校探究科1年4班 三浦蔵之介 小林直人 青沼颯空 藤原楓奈子 小野莉水

1. 社会課題



2. 問い

地元資源の棚田の米を使ったお結びを、県民が消費し、御領棚田を知ってもらうことで、棚田の保存につなげることはできるのか？

3. 探究背景

棚田は、高齢化や過疎化の影響で衰退が進んでいる。甲斐市の御領棚田では棚田保存会を立ち上げており、棚田の維持継承に取り組んでいる。そこで御領棚田を活用して、棚田の認知度を向上させ、数少ない棚田を保存していく探究が求められる。

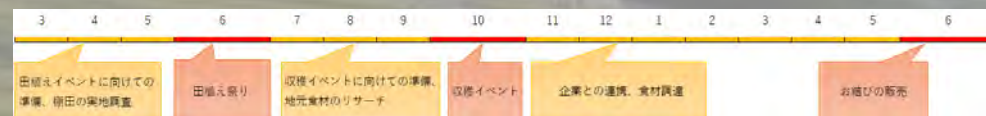
4. 探究目的

御領棚田で私たちが作った米を使用して御領棚田の味を最大限に引き出したお結びを作る。それによって人々に棚田の魅力や存在意義を知ってもらい棚田の保存へとつなげる。また、そこから結の文化を再構築させる。

5. 基礎探究

結の文化…村や集落で互いに支えあって生活を送る地域コミュニティ。
お結び…弥生時代には原型が存在し現在では日本のソウルフードである。
棚田…山の傾斜地に階段状に作られた水田。古墳時代から存在。

6. 提案



棚田を利用し田植えから稲刈りまで自分たちの手で行う。その過程においてイベントを開催し、県民に棚田の存在意義について考えてもらう。また、企業との連携を図り御領棚田の米を使ったお結びを販売する。

7. 今後の展望

棚田の実地調査(第一回/R4.1.21実施)やイベントの開催



企業との連携・独自のお結び開発



御領棚田の保存・結の文化の継承

8. 参考文献 ・ Onigiri.or.jp ・ NPO法人棚田ネットワーク <https://tanada.ro.jp>
・新潟県HP <https://www.pref.niigata.lg.jp> ・ 広報甲斐2021.11



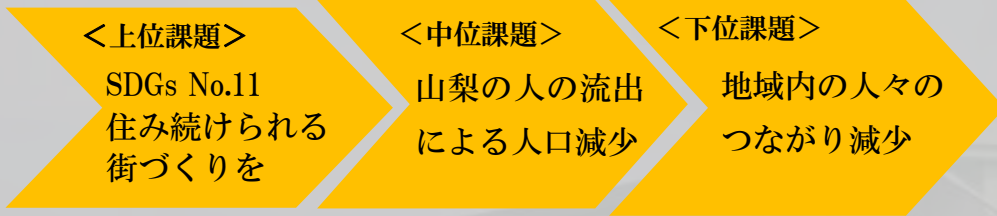
道の駅を道の益に

～道の駅を生かした町づくりで山梨を活性化～

1年5班 班員 松村優吾・内田勝士・細川優羽・野畑希天



<社会課題>



<探究の背景>

今、山梨県では県外への人の流出によって人口が減少している。その結果バスなどのインフラが衰退し、町として住み続けることが難しくなっている。そこで3つの機能を持つ道の駅を活用することが人と人とのつながりを強め、山梨の衰退を食い止めるきっかけになるのではないかと思道の駅について探究するに至った。

<仮説>

「地域のコミュニティである道の駅を活性化することで地域内のつながりが広がり、インフラの衰退を食い止められるのではないか」



<道の駅とよとみでの実地調査の結果>

評価できる点	改善すべき点
<ul style="list-style-type: none"> 野菜が新鮮かつ安い 近くに国道があり、バス停が道の駅構内に設置されている 観光客向けのお土産が売っている 	<ul style="list-style-type: none"> モノがあふれていて少し圧迫感がある 立地が観光向けではないため若い年代の客層が薄い 休憩施設があまり活用されていない

<道の駅における二極化>

道の駅は大きく分けて「観光に特化しているもの」と「地域に特化しているもの」の2つに分類できると考えられる。

観光特化型の道の駅

例:道の駅 保田小学校

廃校となった小学校をリノベーションして作られた道の駅。給食が提供されており、小学生に戻ったような体験ができる。

観光客、特に若者が集まりやすく遠くからも訪れる方が多い

<これからの展望>

私たちにとって課題を改善に新たに施設を作るなどの解決は難しい。そのため我々は優れた点をさらに伸ばすことで道の駅としての機能向上を図りたい。

スーパーとの差別化

地域の連携強化

地元で愛されるコミュニティへ

解決案 ICTを使った取り置き制

常連客の家に商品の注文ができる子機を設置。そこから商品を注文し、道の駅でその商品を取り置き。24時間以内に取りに来ていただく。

<参考文献・実地調査先>

- 道の駅とよとみ / 「道の駅」の概要 - 国土交通省 <https://www.mlit.go.jp>
- RESAS 地域経済分析システム resas.go.jp/data-analysis-support
- 「道の駅」全国一斉アンケート報告資料元気な日本をつくる会 <https://powerful-japan.org>



小水力

～小水力発電の普及に向けて～

探究科1年6班 住友李成 石水稔基 伏見康平

宮田季幸 森屋伊織

上位課題

地球温暖化対策

中位課題

小水力発電の普及
(全国)

下位課題

小水力発電の普及
(山梨県)

<探究背景>

現在日本の発電は火力発電がメインとなっている。しかし、エネルギー資源を消費してしまうため、再生可能エネルギーを使用する発電に転換しなければならない。

日本の発電の内訳



<小水力発電>

- ・利点…再生可能エネルギーを使用する。
大規模な工事を必要としない。
∴環境への負荷が少ない。

- ・懸念点…水利権の問題により、川や水路
への発電機の設置が難しい。



<水利権とは>

特定の目的（水力発電、かんがい、水道等）のために、その目的を達成するために、必要な限度において、流水を排他的・継続的に使用する権利。



有権者の多くが発電機の設置を許可しない

<活動計画>

小学校を訪問し、小水力発電について講演を行う。

理由) 講演を通じて小水力発電、エネルギー資源について興味をもってもらい、発電機設置の許可につなげるため。講演後にアンケートに回答していただくことで、保護者や有権者の小水力発電に対する意見を集めるため。

【講演の流れ】

- ・エネルギー事情について…10分
- ・小水力発電について…15分
- ・キットを使用した実験…15分
- ・水利権について…25分
- ・ディスカッション…15分
- ・総括…5分

ディスカッションについて

水利権の有権者であると仮定し、小水力発電の発電機を設置すべきか、またその理由は何か考え、意見を述べてもらう。

※現在北杜市立長坂小学校に打診中

<アンケート>

事後アンケートとして児童とその保護者を対象に行う。主に小水力発電の認知について、水利権の保有について、発電機の設置についての考えを問う。

<参考文献>

- ・ <https://www.nikkan.co.jp/articles/view/455153> (発電機の画像)
- ・ <https://www.mlit.go.jp/river/riyou/main/suiriken/index.html> (水利権の定義)



首都 やまなし

1年7班 倉知慧太 中田裕也
中嶋そら 神取雄大

上位 :

SDGs NO.11

中位 :

人口減少によるGDPの低下

下位 :

山梨県の人口減少

背景

◎山梨の人口流出…現在は約81万人

2045年の予測は約68万人

甲府市においては、2020年4月現在186438人、

2045年は146591人まで減少するとされている

◎自然減と社会減の両側面

合計特殊出生率は全国:1.37 山梨:1.31 =自然減

人口の流出は、20代前半、3月に大きな移動がみられる。=社会減

◎私たちはこの現状が、限界集落の増加や高齢化などの課題に直結しているとみて、探究の軸とした。

目的

人口減少について多方面から分析・追及をして、解決の糸口を探す。積極的な情報収集と提案を通じて、人口という視点からこれからの山梨の変化について見抜く。

山梨経済同友会 | 山梨の活性化に向かって <https://www.yamanashi-doyukai.gr.jp/>

総務省 | 平成27年版 情報通信白書 | PDF版 <https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h27/pdf/>

好景気ゆえに鮮明化する 沖縄県経済の構造的な課題 <https://www3.boj.or.jp/naha/pdf/0022jigyuu190705.pdf>



調査記録

市役所への調査で、甲府市政に関わる、山中和男市議会議員をはじめとした5名の要人にお話を伺った。

また、我々からも、甲府市の高校生として、教育やリニアについて提案をさせていただいた。

左に主な話題についてまとめた。

追加調査

私たちはリニアモーターカーの開通によって山梨と他の地域と時間的な距離が縮まることで、二拠点居住を含めた広い意味での山梨の人口に良い影響を齎すと考えた。そこで山梨県庁リニア未来創造・推進課への追加調査を発案した。しかし度重なる分散登校と、そもそも活動が制限されている中で取材は行えなかった。情報を得るため、同庁が出したリニアやまなしビジョンを拝見した。着目したのはリニアの「防災力」と、最先端技術の実証実験の場「テストヘッド」としての山梨の姿だ。そして、得られた情報から上記のことについて当庁に電子メールを通して質問をした。返答があればさらに深められる可能性。

考察

- ◆ リニアモーターカーの開通は人口減少という観点から見ても大きな転換期と成り得る。⇔自然との兼ね合いなど懸念点も
- ◆ 甲府に国会議事堂を移転させる計画があった。⇔動きは無し
- ◆ 京都に文化庁を移転させる計画は実行されている。⇔延期中 徳島県に消費者庁が移転した。
- ◆ 山梨は18歳の（大学入学）流入人口は過多⇔しかし卒業後に流出。

就職に困らないというのが卒業後の若者の山梨県残留の条件？

自然豊かな環境や立地条件を生かして省庁など一部の都市機能を移転できないか？



みんなで変えよう生ゴミ

～循環する生ゴミの処理の仕方を考える～

山梨県立甲府第一高等学校 1年探究科8班 小林豪 今泉実怜 井上泰徳 樋泉凜

上位課題 SDGs No.12
作る責任 使う責任

中位課題 山梨県の生ゴミの
処理の仕方に改革を

下位課題 家庭の生ゴミに対する
意識を変えよう

<探究背景・目的>

生ゴミは水分が多く、現在の焼却処分では多くのCO₂が排出される。そこで、堆肥化という処理方法で、**生ゴミの循環**とともに**CO₂の削減**を目指す。

<探究結果>

コンポスト…家庭の生ゴミなどを微生物の力で堆肥を生成すること。



家庭での
コンポストの
メリット

- ・生ゴミを捨てる手間がなくなる
- ・家庭菜園やガーデニングに使える

デメリット

- ・時間がかかる
- ・毎日の手間
- ・防虫対策
- ・臭いの発生

→その手間や時間から見ても、家庭でのコンポストの推進は厳しいと考えられる

→自治体単位での**堆肥化事業**を通して生ゴミを循環させる取り組みに注目

中央市
とよとみ
クリーンセンター
利点



- ・大規模な生ゴミの循環
(家庭で野菜消費→生ゴミ回収→事業で堆肥化→農家へ販売・野菜生産→スーパーなどでの販売)

- ・可燃ゴミの処理量が減る効果
(CO₂削減、燃料代、燃やす手間減少)

課題

- ・老朽化や広大な土地
- ・経営面

今後の展望として、解決する方法を考える

・分別への協力

→市民に対して、生ゴミの正しい分別の徹底化をしなければならないという課題について、次の提案をする。

<提案>

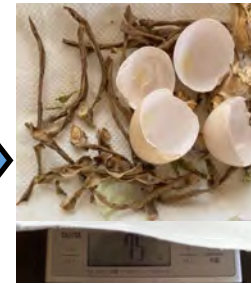
事業導入の際、市民に対して分別の徹底化をいきなり強いるのは難しいだろう。そこで、生ゴミの焼却処分の問題に目を向ける人を増やすために、まずは市民に生ゴミの水切りを徹底化させることで、協力のきっかけが得られる。

- 水切りの**メリット**
 - ・生ゴミの**重さ**を減らせる。
 - ・生ゴミの**臭い**を抑えられる。
- デメリット**
 - ・**手間**
 - ・**時間**
 - ・**場所**

次のような方法で、生ゴミの水切りを簡単に行うことができる。

～水切りの具体的な方法～

- ①**濡らさない**(野菜のくずは、濡らさずにそのまま捨てられる)
- ②**乾かす**(生ゴミをトレーなどにおいて2.3日放置。外でより速く乾かせる)
- ③**絞る**(ネットの生ゴミを底に小さく穴の開いたビニール袋に入れ、水分を絞って捨てる)



～水切り啓発の方法～

ポスターなどで水切りのメリットや簡単な方法を知らせ、市民に水切り徹底を啓発していく。

<今後の展望>

他にも学校での出前授業や啓発動画など、市民の協力をより多く得られるような様々な啓発方法を考えたい。

また、堆肥化事業の導入の課題、経営面の解決の方法を考えていきたい。

<参考文献>

LFCコンポスト <https://lfc-compost.jp/about>

自治体による生ごみリサイクルの状況について

https://www.istage.ist.go.jp/article/iswmepac/17/0/17_0_6/_pdf/-char/ja

西原環境 <https://www.nishihara.co.jp/case/case08.html>

生ごみの水切り 横浜市

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/sumai-kurashi/gomi-recycle/namagomi/index-mizukiri.html>



鬼ごっこU-100

山梨県立甲府第一高等学校 探究科1年9班

海野弥羅 佐藤星空 三枝海斗 古屋祐晴 山瀬慎之介



<課題>

- 上位 SDGsNo.10 人や国の不平等を無くす
- 中位 遊びの場におけるバリアフリーが完全ではない
- 下位 誰もが同時に楽しめる鬼ごっこのルールがない

<背景>

バリアフリーは進んでいるが遊びの場において障がいを持った人と健全な人が一緒に遊んでいる姿は見られない。

<探究目的>

年齢、障がい関係なく誰もが楽しめる鬼ごっこの開発によって、障壁のない遊びを実現する

<鬼ごっこにはいいところがたくさん！>

大人から子どもまで多くの人ができる
どこでもできるしルールがわかりやすい
多くの人を知っていてアレンジが無量大

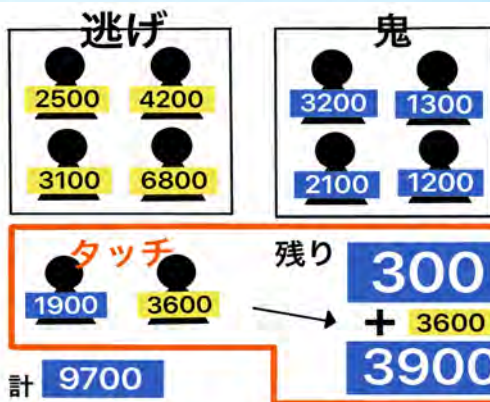


「鬼ごっこで遊び場のバリアフリーを！」

<障がいを持った子の遊びの現状>

甲府支援学校の先生に伺ったところ、多くの生徒さんが、テレビゲームをしたり音楽を聴いたりなどの体を動かさない遊びをしているとのことだった。

I. 万歩計鬼ごっこ



逃げすぎると損する身体能力と頭が必要な 歩数を意識した鬼ごっこ。逃げは個人で歩数が溜まっていく。鬼は鬼全員の歩数の合計が決まられていて、歩く度に減っていく。鬼が逃げをタッチすると、捕まった逃げが溜めた歩数を貰うことができる。

II. 音鬼

透明な鬼なら目の見える見えないは関係ない！
音を頼りに透明な鬼を探す
鬼のいる場所を時間内に見つければ勝ち。



アプリや音源機で鬼を作る→

III. 3枚のお札鬼



ボールの個数や止まる秒数などで走れる人と走れない人の差を埋める！

IV. 車椅子スポーツ鬼

歩行者と車いすの方が混合のチームで行うスポーツ鬼ごっこ。相手につかまらないようにゴールを目指し、ボールをかごに入れる。時間内の点数を競う。

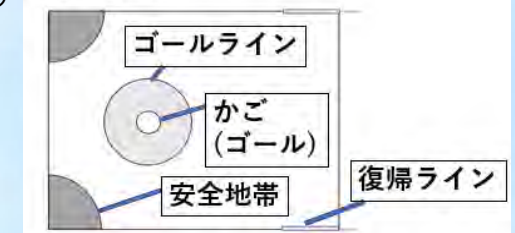
<車椅子の方の追加ルール>

- ・ボールは一個3点。
- ・安全地帯を使える。
- ・安全地帯にいる人を捕まえられない。

<特殊ルール【合体】>

車椅子の方を歩行者が押すことで発動。→車椅子の追加ルールを素早く動きつつ受けることができる。

<コート>



<考察&今後の展望>

甲府支援学校の先生のアドバイスをもとに、多くの人ができる鬼ごっこのルールの考案&実施&普及

<参考&協力>

甲府支援学校 金谷愛枝様

あなたに合った読書のカタチをお届けします。

～多様な読書法でストレスの緩和を～

山梨県立甲府第一高校 探究科1年 11班

柳本羽衣 神田煌真 小森凜太郎 佐野史奈 石川智貴

上位課題

すべての人に健康と福祉を

中位課題

ストレス緩和で豊かな生活を

下位課題

日本人の読書離れ

探究の背景

忙しく、毎日時間に追われている現代人にも読書の良さを広めたいと考え、探究活動を始めた。また、読書を広めるには多様な読書法を提案することが必要不可欠だと考え、特徴や課題などを考え始めた。

仮説

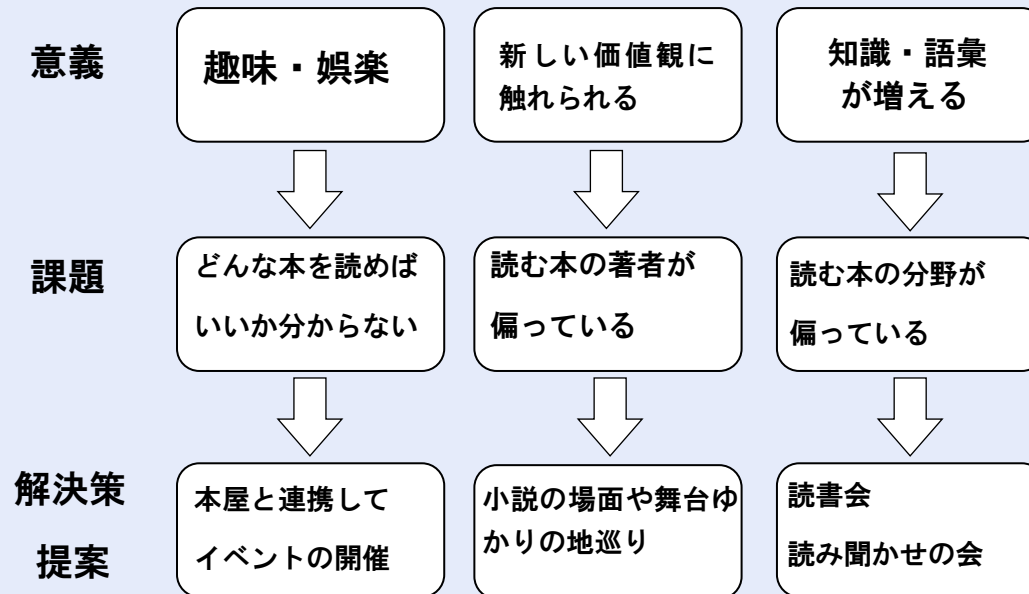
読書の意義を踏まえ、その意義にかかわる課題を解決する提案を行えば、読書をする人が増えるだろう。

探究の目的

様々な読書のカタチを提案し、読書を普及する。

そこから、読書をすることで得られる価値観などのメリットを広めて、現代人の生活を豊かにする提案を行う。

調査結果



今後の展望

- ・計画していた実地調査やアンケートを行い、読書に関する課題を明確にして、現状を明らかにする。
- ・読書と豊かな生活の関係性についてより深く文献などを用いて、調べる。
- ・様々なカタチの提案を実行していき、読書を普及する。

参考文献

<書籍> 「何のために本を読むのか」 齋藤孝著 青春出版社

・「脳を創る読書」 酒井邦嘉著 実業之日本社

<WEB> 「読書の有用性についての一考察」

(https://www.sai-junshin.ac.jp/junshin/wp-content/uploads/2018/03/no.3_pp.67-73.pdf)

教えて学ぶ

～テストの思考力問題にはどのような勉強法が効果的か？～

1年12班 齊藤史奈 清水豊大 志村碧泉 名取遥果

社会課題



探究の背景

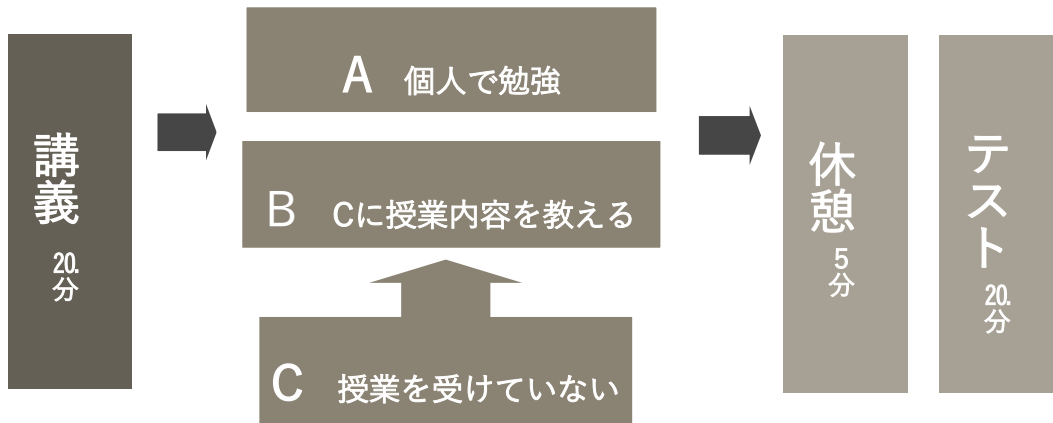
共通テスト導入から思考力問題が重要視されるようになり、より深い理解が問われるようになった。そこで、生徒同士が勉強を教え合い理解を深められる勉強法に注目した。これを学校の授業で取り入れてもらえるように活動をする。

仮説

生徒同士が勉強を教え合えば、より深い理解によってさらなる学びができる。

実験内容

①方法



②結果

調査項目	知識技能		思判表		合計	
	8点満点		2点満点		10点満点	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
A	6.71	1.58	0.86	0.99	7.57	2.38
B	7.33	1.49	1.17	0.90	8.50	2.14

※A・Bグループは先生の配慮の元、成績に差がないよう判別してもらった。
実験後のBグループの感想は以下の通りだ。

- ・教えようと言葉にすると上手く伝えられない部分、つまりは理解出来ない所に気付ける
- ・相手に伝えるという作業が習った知識の再確認になるから、自分の言葉で噛み砕くことができ、さらに覚えやすくなる

「教えて学ぶ」勉強法では、そもそも自分がその内容を理解する必要があり、さらに教えあいの会話の中で不明確なところをはっきりさせることができる。よって自分自身の中で2段階納得していることになるため、この勉強法は意義のあるものだと考える。

今後の展望

- ・教育関係の企業にコンタクトをとる
→「教えあう勉強法をどのように授業内で取り組んでいるか」とアドバイス等を伺う
- ・他の科目でも実験を試してみる
→どの科目で教えあいが役立つのかを調べる

参考文献

- ・名古屋商科大学 <https://www.nucba.ac.jp/active-learning/en>
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>
- ・国立教育政策研究所 <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>